



一日一話

古賀 詳二

古賀詳二の一日一話

「理想と現実の狭間の中で夢を諦めるな」

はじめに

本書は、100年に一度と言われる大不況の中、日々刻々と変わる出来事を通じて諸行無常の世相と自分自身を見つめ、どのように思考・行動したかを記録するものであり、また私の人生観を通じて社員の成長に役立ち、また社員のこれからの人生が多幸であることを祈念するものです。

2011年11月11日

コガソフトウェア会社

代表取締役 古賀 詳二

(経歴)

1955年11月11日 長崎県南高来郡小浜町に生まれる。

1974年3月 長崎県立諫早高等学校を卒業する。

1975年4月 大分大学工学部組織工学科に入学する。

1979年3月 大分大学工学部組織工学科を卒業する。

1979年4月 某ソフトウエア会社に入社する。

2000年2月 同社の経営方針に失望して退職する。

2000年3月21日 コガソフトウエア株式会社を設立する。

2001年6月 新潟県長岡市の異業種中小企業（3社）ともに環境ビジネスを模索する

（株）ウェブドウを設立、取締役に就任する。（2010年9月退任）

2005年8月 安心安全な社会実現を実現する製品を作る

ネイチャーインターフェース社の取締役に就任する。

目次

一章 「シユメール人」に学ぶ

2

二章 「信念」に学ぶ

29

三章 あなたには何が見えていますか

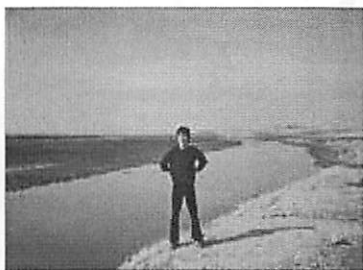
75

一章 シュメール人に学ぶ

【2010年9月6日 「メソポタミアと私」】

経営は哲学し、その哲学を実践すること。その経営は価値を持つのである。そのために、儒教の教え、仏教の教え、ユダヤ教の教え、キリスト教の教えを学んできた。しかし、それらは文明や思想が交わってできたものであり、その底流に流れる人間の本質まで理解することには至らなかったという漠然とした不安があった。

そこで、チグリス川とユーフラテス川の間の沖積平野で起こった人類最古のメソポタミア文明を学ぶことで漠然とした不安を解消することにした。その文明は最古であるがゆえに他の文明からの影響を受けなかった。それは人間文明の創始であり、その創始者はシュメール人である。シュメール人の遺した文明や文化から彼らの思想を学び、生きる本質を理解したいと思う。



この一枚の写真はイラン・イラク戦争が起こっていた昭和58年冬（当時28歳）にバクタットの南方90kmにある土代都市バビロン（前3千年紀末に登場する都市で、ここにアムル人がバビロン第1王朝を建設し、前18世紀に第6代の王ハンムラビがメソポタミアを統一した）で撮ったものである。この後はユーフラテス川であり、その当時のイラクといえども冬は寒いことがこの写真で分かる。このような

場所でもソポタミア文明は栄えたのである。



また、この写真はイシュタル門で同じ日に撮影したようだ。この門は紀元前575年に新バビロニア王国の王であるネブカドネザル2世により建設された。青い釉薬瓦で、バビロンの女神イシュタルと共に、シルシュ（ドラゴン）、オーロックスの浅浮き彫りなどが描かれている。この時期が新バビロニアの最盛期であった。紀元前597年にネブカドネザル2世はエルサレムに入城し、ユダヤ人の王エホヤキムを殺害し、約3000人の有力者を捕虜としてバビロンに拉致した。

また、紀元前586年エルサレムは破壊され、ゼデキヤ王以下ユダヤ人たち（約10万人）はバビロンへ連行された。これをバビロン捕囚という。これらのユダヤ人はイシュタル門の建設に従事させられたであろうし、このイシュタル門を見たであろう。ユダヤ人がバビロンを相対に恨んでいたであろうことは想像できる。このバビロン捕囚のとき、ユダヤ人は結束が固まったと言われ、また旧約聖書が完成させたともいわれる。

次回からシュメール文明について書きたいと思う。

【2010年9月13日 フラックホールとシュメール人の冥界（一）】

天文学で最近最も関心があるのがフラックホールとダークマター（ダークエネルギー）である。人類が地球温暖化で滅亡するかもしれないが、その前に隕石の衝突や恒星の爆発で滅亡するかもしれないことが最近の天文学で明らかになっている。ちよつと、機道にそれるが、私は宇宙については関心があるので、そのことも紹介したい。2004年6月19日にキットピーク国立天文台でロイ・カッターらにより、小惑星が発見された。その小惑星をアポフィスと命名した。そのアポフィスが2032年に地球に接近する。それが人工衛星に複数衝突すると、軌道変更して地球に衝突するかもしれないという議論の衝突があった。アポフィスの直径が390mで質量が 7.2×10^{10} の10乗kgでそれが衝突すると人間を含む生物が大量絶滅すると言われている。アポフィスは2032年から2103年までに地球に6回接近すると予測されている。その頃までには核爆弾を搭載したロケットでアポフィスの軌道を変更することは可能になっているだろう。

オリオン座のベテルギウスは太陽系から640光年と近い、そのベテルギウスはいつ超新星爆発をおかしくない赤色超巨星である。ベテルギウスが超新星爆発を起こし、その爆発の方向が地球に一致するとガンマ線バーストがオゾン層を破壊して陸上動物が絶滅するかもしれないと唱える学者もいる。天文学が発達することが宇宙を知るロマンから人類を救う科学に変わっていることも理解する必要がある。

【2010年9月14日 フラックホールとシュメール人の冥界（二）】

最近の天文学でフラックホールの生成についてかなり分かってきているが、フラックホール自体のことは分かっていない。その理由はフラックホールの内部には時間と空間が存在せず、人間の考える現在の物理学では説明できないからである。フラックホールは大きな恒星が死んだ後に発生する天体である。フラックホールの特徴は1. 大質量の恒星が水素の核融合を繰り返して、その恒星の中心が鉄になり、その寿命の最後に超新星爆発を起こし、自己重力によって極限まで収縮することで生成する。2. 光が抜け出せない暗黒の世界である。3. フラックホールの境界内では時間と空間が存在しない。4. フラックホールは物質を飲み込む。5. 宇宙のすべての銀河の中心にはフラックホールがあり、これが宇宙を進化させている。例えば、地球がフラックホールに飲み込まれるとその大きさは直径5cmのゴルフボールと同じくらいに

なる。ブラックホールは宇宙の冥界であろう。

人類最古の文明を作ったシュメール人は死後に行く世界（冥界）を次のように考えていた。シュメール人の冥界は「イシタル（実の女神）の姉のエレシキガルが治めている戻ることのできない土地で死者の世界である。その特徴は1. 入る者は出ることもない家へ、2. 歩み行く者は戻ることのない道へ、3. 住む者は光を奪われる家へ、4. そこでは埃が死者の御馳走、粘土が彼らの食物で、5. 光を見ることもなく、暗闇のうちにすむ6. 鳥のように翼のついた着物を身につける、6. 冥界の門のうえ、かんぬきのうえには土埃が積もる。これは「イシタルの冥界下り」の神話に書かれている冥界の様子である。

また、ギルガメッシュ叙事詩の中にもまったく同様な冥界の様子が書かれている。このようなことから彼らの死後の世界はあまり楽しくないようだ。このことから彼らには善と悪の概念が存在していなかったのだろう。また、シュメール人は生きることに執着していたことも想像できる。

宇宙のブラックホールの存在は善も悪もなく、シュメール人の冥界にも善と悪がない。

【2010年9月15日 「シュメール人の幸福感」】

ギルガメッシュ叙事詩（シュメール語版の編纂は紀元前二千年紀に遡る可能性がある）の中で、ウトナピシティム（生命を見た者）がギルガメッシュ（紀元前2600年ころのウルクの都城の王）に語っていると、当時の平均的な幸福感が分かる。

ギルガメッシュよ、あなたはどこまでさまよいいくのです

あなたの求める生命は見つかることがないでしょう

神々が人間を創られたとき

人間には死を割りふられたのです

生命は自分たちの手のうちに留めておいて

ギルガメッシュよ、あなたはあなたの腹を満たしなさい

昼も夜もあなたは楽しむがよい

日ごとに饗宴を開きなさい

あなたの衣服をきれいなさい

あなたの頭を洗い、水を浴びなさい

あなたの手につかまる子供たちをかわいがり

あなたの胸に抱かれた妻を喜ばせなさい

それが人間のなすべきことだからです

新島秀夫氏の幸福について私は共感するので、彼の幸福の段階を紹介する。

第一のステージ 富、名声、恋、スポーツ、食事などを通して快楽を得ることに幸福を感じる。

第二のステージ 獲得した快楽を永続せようとするいとなみの中に幸福がある。

第三のステージ 苦しみや悲しみを克服するいとなみの中に幸福がある。

第四のステージ 克服できない苦しみの中に、幸福がある。

これとシヌメール人の幸福を重ねると、彼らはすでに第二のステージの生き方を考えていたことになる。さらにギルガメッシュは第三のステージ以上の幸福の段階にいたことになる。紀元前2000年頃、このような幸福感をシヌメール人が持っていたことに驚く。

【2010年9月21日 「シヌメール人のエロティシズム」】

先日、ある生物学の先生の講演を聞いている中で、人間と他の哺乳動物の違いで、人間には体毛がない、人間のペニスには骨がないなど違いがあると聞いた。なぜ人間のペニスには骨がなくなったのだろうと思ったが、調べるのにも時間がかかるので理由は不明とする。私は脳の

発達に關係し、子孫の遺す行為は當然だが、快樂を求めるために骨を退化させ海綿体を発達させてのではないかと憶測する。

今から4000年前のギルガメッシュ叙事詩の中で、遊び女 神聖娼婦がエンキドゥを誘惑する行が現在のストリップ嬢の動きに似ていることに興味をそそった。

ところで、遊び女は、この山男を見た

野原の奥から来た、この野蠻な男を

「彼がいる、遊び女よ、胸元をゆるめよ

奥所を開き、彼にお前の魅力をとらえさせよ

ためらうな、彼の心を受けとめよ

お前を見ると彼はお前に近づきたろう

お前のうえによこたわれるように着物を脱ぎすてよ

野で育った獣たちは彼をみすてるだろう

彼の気持ちはお前にひかれてゆくだろう」

・・・

六日と七晩、エンキドゥは遊び女と交わった

遠い昔も今も変わらないエロティシズムにシュメール人の知性を感じた。

【2010年9月24 「イラク博物館（一）」

イラク博物館はバグダード市内にあり、人類最古のメソポタミア文明の遺物では当然世界一のコレクションが収蔵されている。しかしなが

ら、イラク国民ならびに人類の至宝が2003年のイラク戦争の騒乱に乗じた密売目的で1万5000点の像などが略奪された。その後国内外で発見させた約6000点が返還されたが今なお約7000点が行方不明になっていると報道されている。メソポタミア文明に少しでも興味を持つてもらうためにも、昭和59年にイラク博物館で購入した博物館のガイドブックに掲載されている大変貴重な歴史的遺物をここで紹介したい。



この写真は当時（昭和58年の冬）のバグダード市内の様子である。私の写っている周囲には煉瓦が散乱している。この写真のことをよく思い出せないので断言できないがこの辺に爆弾（イラン・イラク戦争中）が落ちたように見える。



この本はイラク博物館のガイドブックであり、初版が1966年で、改定が1972年になっている。



い。
この紙片はこのガイドブックを購入したときの領収書であろうが、アラビア文字で書かれているので何を書いてあるのかさっぱり分からない。

人類は700万年前にアフリカの熱帯雨林に住むチンパンジーから別れ、人熱帯雨林から一足歩行で草原に出ていった、チンパンジーとは違い動物を食べることで脳が発達したと言われている。人類が石器を使つたのは250万年前でそれからは旧石器時代という。

前期旧石器時代（Lower Paleolithic、250万年前～12万年前）

ハンドアックスがひろく用いられた時代。この時代の人類はホモ・ハビリスおよびホモ・エレクトゥスが主流であった。

中期旧石器時代（Middle Paleolithic、30万年前～3万年前）

剥片石器が出現した時代。ネアンデルタール人が広がった。

後期旧石器時代（Upper Paleolithic、3万年前～1万年前）

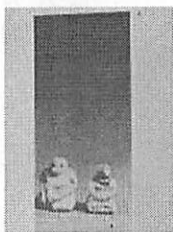
石器が急速に高度化、多様化した時代。このような技術革新の原動力を言語に求める説もある。クロマニヨン人（ホモ・サピエンス）が主流となり、他の化石人類は急速に姿を消した。

現人類をホモサピエンスというが、他の化石人類は姿を消した。それはその当時、気候変動が起こり、食料不足で絶滅したのではないと言われる。なぜ、ホモサピエンスだけが生き残ったのか？それは、長い笛は音色が多いのと同じに、ホモサピエンスの喉は長く、発生できる母音が多く、言葉を巧みに使いこなしたことで生き残ったと考えられている。

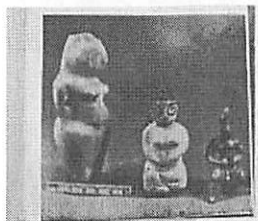


ラダ【Barada, 川】から出土した旧石器時代の石斧である。これを使ったのがネアンデルタール人かホモサピエンスかわからないがこれを使って狩猟していたのであろう。

【2010年9月29日】「イラク博物館」(3)

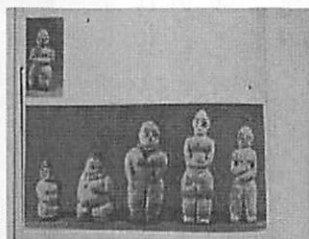


これは紀元前6000年の、テル・エッ・サワン【Tell es-Sawan, 遺跡】から出土した2つの大理石の小立像である。



これも紀元前6000年のテル・エッ・サワン【Tell es-Sawan, 遺跡】から出土した、地母神を表している2つの大理

石の小立像と、裸の男性の姿を表している、彩色した粘土から作られたもう1つの像である。



これは象眼された目の、地母神を表す雪花石膏の小立像で、そのうち2体はターコイズのネックレスを身に付けている。テル・エツ・サワ
ン【Tell es-Sawan, 遺跡】から出土した紀元前6000年のものである。

紀元前6000年頃から紀元前5000年のメソポタミアはハッスーナ文化期と呼ばれ、灌漑農業が行われ、小麦、大麦が栽培され、羊、牛、豚などの家畜が飼育された。このような像を大理石や雪花石膏で余裕と豊かさがメソポタミアにあった。また、多産、肥沃、豊穡をもたらす地母神を作っていることから自然発生的に神信仰は始まったのであろうか？しかし、この頃には未だシュメール人はいなかった。

2007年の世界のビールの消費量は1億7552万キロリットル、大びん633ミリリットル換算で2773億本になる。地域別ビールの消費量では中国、アメリカ、ロシア、ブラジル、ドイツの順で日本は7番目である。ビールは世界中で良く飲まれている。

人類最古の酒はワインで紀元前6000年頃にメソポタミアで作られ、ビールも紀元前5000年頃のメソポタミアでビールパンに水を加えると自然発酵することから偶然発見された。シュメール人はビールを大変好んで飲んだようだ。



これは古代ウルク市から出土されたことから、「ウルク出土の大杯」と呼ばれ、シュメール美術の代表的傑作である。外周に浮彫で宗教的儀礼の図像が彫って、イナンナ女神の神殿に一对で納められ、この大杯の中にお神酒としてビールが注がれた。メソポタミアが大変豊かな土地であり、シュメール人が高度な文明・文化を持っていたことを理解でき、我々もシュメール人の知恵の恩恵にあずかっている。

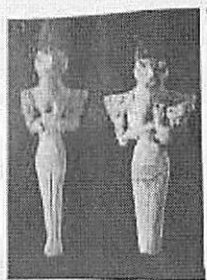
【2010年10月8日】「イラク博物館（5）」

シュメール人は、遙かな古代、どこからともなくメソポタニアの地に姿を現し、何の手本もなしに、独力で人類最初の文明を築き上げ、今から4000年前、突然その姿を消してしまった。シュメール人の正体は未だ考古学の謎である。



この像のことをガイドブックには次のように紹介している。テル・アズマー【Tell Asmar, 古代の土手】にある正方形の寺院から出土した2つの像で、おそらく神アブ【Abu, 植物の神】とその妻を表している。紀元前2500年の第三王朝時代。しかしながら、これは神ではなく、シュメール人そのものである。

シュメール人の人種的特徴は目が大きく鼻も大きく、身長は高からず、つづらな瞳で、髪の色は黒いという。男性は剃髪し、髭を生やし、羊毛の房が舌状になったカウナクスと呼ばれる腰巻を巻いている。女性像には胸を露にすることはなく長い衣服を着ている。



これは紀元前4000年期のウバイド時代の豊穡の女神を表す赤土焼の小立像で、ウル【Ur、古代シュメール人の都市】から出土した。この女性像には可愛さは微塵もない。これを良く見ると女性の下半身に三角形の布が巻かれている。ウバイド時代からウル王朝時代までに織物技術が発達したことをうかがわせる。

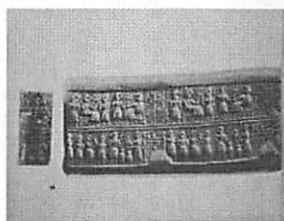
【2010年10月12日 「イラク博物館」(6)】

私は毎日、印鑑を使っている、多くの日本人も印鑑を持ち、使っている。個人では実印、銀行印、認印、会社では代表印、社印、銀行印、他には職印、公印、落款印、訂正印がある。その材質は象牙、水牛の角、羊の角、柘植、黒檀、瑪瑙、琥珀、金、チタン、プラスチックなどがある。日本での最古の印は西暦57年ころの『漢委奴国王』の金印であり、中国では戦国時代（紀元前403年～紀元前220年）の印章が確認できている最古である。

メソポタミアでは紀元前7000年期後半の時代のスタンプ印章が発見されている。驚くべきことである。印章と文字の発展には深く関連がある。メソポタミアでは灌漑農業が発達し、大麦、ヒヨコマメ、ヒラマメ、雑穀、ナツメヤシ、タマネギ、ニンニク、レタス、ニラ、辛子を栽培していた。また、牛、羊、山羊、豚を飼育していた。このようにメソポタミアは大変豊かであった。狩猟から農耕に変化すると集落ができ、その収穫した穀物などは一か所に集められた。その後集落民に分けられてと考えられている。

収獲した物や家畜などを管理するために、トークンが生まれた。最古のトークンは紀元前8000年ころのものである。トークンとは粘土の小さな塊（円錐、円盤、球、棒の形で表面には種類、羊、牛、犬、パン、油などを表し、塊で数を表した。それらのトークンをブツラという粘土製の球形容器に入れて、収獲した穀物を数量にして記録した。そして、そのブツラに封泥するために印章が使われた。また、取引や契約の証としても使われた。時代が過ぎ、都市化が進み交易が多様化するとブツラの表面に中に入っているトークンを刻印するようになった。それから、簡単に粘土版に筆で書けるように直線的な楔形文字が発明された。文字は在庫管理手段、受発注管理手段であり、印章は認証として発達したのである。実益で文字が発達したのは大変興味深い。

初期の印章は我々の印鑑と同じであったが、粘土版にこうがして鮮明な印影で認証するようになってから、円筒印章になった。



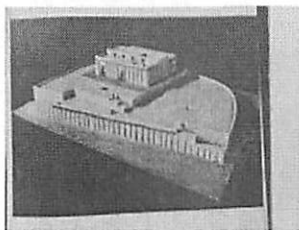
これは紀元前2500年の第三王朝時代の円筒印章とそれを押してできた図であり、ウル【U₁】、古代シュメール人の都市】から出土したもので、宴會を表している。

印章がシルクロードから他の交易品とともに中国に伝わったのであるが、その事実を示す考古学的資料は未だ発見されていない。将来、中東から印章が中国に伝わった証拠が見つかるかもしれない。こんなロマンを想像するのも楽しい。

今回でイラク博物館は最後です。

神と人間の関係にどのようなものであったのか？メソポタニアは大変豊かな土地で作物の収穫は大いに満足するものであっただろう。だからこそ、彼らは自然災害を恐れて、初期の頃は地母神を作り、五穀豊穡を祈った。何時の時代でも頭の良い人間はいるもので、自然現象である自然災害は神の怒りではないかと思つた。そんな人たちが神を想像し、神を創造したのではないのか？神が存在するならば、神に祈り、五穀豊穡を神に願つた。それが神官を作り、神殿を作り、しだいに組織化されて、権力の集中となる都市国家に発展した。さらには権力集中の頂点である王を作り、王朝時代に発展したと私は考える。

シュメール人は、神々に奉仕させるために粘土から人間を作つたと信じていた。また、人間が神に服従するために死を与えたとも考えていた。だからこそ、地震、雷、台風、干ばつなどの自然災害や疫病は神の怒りと考え、天上にいる神々に神殿を作り、神の家族を住ませ、収穫物を奉納し、祈ることにより神の怒りを鎮め、自然災害などが起こらないことを祈つた。面白い事にシュメール人は人間同士の戦争を神が人間の人口抑制に使つたとも考えていた。それはギルガメッシュ叙事詩の中でギルガメッシュとエンキドゥが森の守護神フンババを殺し、森のレバノン杉をすべて切つたとの記述から人口爆発が問題であったことを示している。



これは紀元前4000年期末期のウカイア【Uqair】にある神殿の模刻である。

古代メソポタミアでは神殿のことをジググラトと呼ぶ。旧約聖書の「バベルの塔」はバビロンに捕囚されていたユダヤ人がバビロンにあったジググラトを基に伝説化したものである。



これは私がイラクのサーマッラーに訪ねたときに撮影したマルウイヤ・ミナレットである。これはアッバース朝第8代カリフのムウタスイムがサーマッラーに建築したサーマッラーの大モスクに付随している螺旋式のミナレットで、イラクで最も重要な遺跡の1つとされ、イラクの至宝と評されている。このミナレットは西暦849年から建築が始まり、西暦852年に完成した。これは古代メソポタミアのジググラットに由来すると考えられている。また、2007年に「サーマッラーの考古学都市」としてユネスコの世界遺産に登録された。西欧人はこれを旧約聖書の「バベルの塔」と考えていた。



これはマルウィヤ・ミナレットの螺旋階段を登り、頂上から撮影した風景である。昭和58年から59年にかけてイラクに滞在したことが貴重な体験であり、私のその後の人生観に大きく影響したことを改めて感じる。

【2010年10月25日 「シュメールに学んだこと（1）」】

人類文明の発祥の地であるメソポタミア文明を勉強した。そして、その文明の中核であったシュメール人とシュメール文明について学び、生きることの本质を考えた。

神が人間を創ったのではなく、人間が神を創った。

すべての現象には始まりがあり、終わりがある、また万物には生と死がある。

多くで言われている死後の世界である天国や地獄はまったく存在しない。極楽浄土はこの世にしか存在しない。今生きていることが幸福である。不幸は存在しない。

なぜ、人間は神を創ったのか？

地球上のすべての生物は必死に生きるようにプログラムされている。それは生物の営みを調べれば、分かることである。生物は生きるために地球の環境変化や生物の多様性に応じて進化してきた。そして、必死に種の保存に努めてきた。人間も同様に環境変化に依り、知能が発達してきた。人間は狩猟生活から農耕生活に移ると劇的に食物を安定して確保できるようになり、人口が増えるようになった。食物の安定確保は人間に思考する余裕を与えた。しかし、地震、台風、雷、豪雨による洪水、干ばつなどの自然災害と疫病などには無力で死の恐怖に怯えた。だからこそ、目に見えない恐怖は何者かが発生させていると考えたのは自然なことであらう。それは自然現象や人間をも監視制御できる者の存在がいたと考え、それを神と呼んだ。神はあらゆるものに宿る（八百万の神）と考えていた。

シュメールでの重要な神々は深淵の神 アプス、天神 最高神 アン、女神 キ、大気神 エンリル、水の神 エンキ、月の神 ナンナル、太陽神 ウトウ、地母神 ニンフルザク、愛の女神 イナンナ、暴風と戦の神 エンリル、火神 ギビル、野生動物の神 シヤカンなどである。このように人間にとつて重要な神を祭り、その神の怒りを鎮めることが死の恐怖から解放させることであつた。それが何時の間にか全知全能の神が生まれ、その神と契約すれば祝福され幸福になれると思つたつになつた。それがユダヤ教であり、ユダヤ教に派生したキリスト教やイスラム教も同じである。

一方、仏教では生きることは煩惱から解放される悟りの境地に至るがために修行することであると考えている。仏とは悟りを開いた人、菩薩は悟りを開くために修行している人となつている。つまり、すべての幸福になりたいと願う人は菩薩と言える。貴方も菩薩であり、私も菩薩なのである。仏や菩薩に祈つても幸運や幸せはない。仏教の教えの本質は「苦」を知り、四諦、苦しみから解放する生き方（八正道）を学び実践することである。

【2010年10月26日】「シュメールに学んだこと（2）」

すべての現象には始まりがあり、終わりがある、また万物には生と死がある。どのようなことが？
現象のすべてには始まりと終わりがある。

太陽が昇ると光が満ちる昼になり、太陽が沈むと暗黒の夜になる。
雲が発生すると雨になり、雲がなくなると雨は止む。

台風が来ると風が吹き、台風が去ると風は止む。

地震が起きると大地は揺れ、地震が止むと大地は静かになる。

潮が満ちると海は深くなり、潮が引くと海は浅くなる。

月が満ちると満月になり、月が欠けると新月になる。

雷雲が発生すると雷が響き、雷雲が動くと雷も動く。

雨が降ると池に水が満ち、干ばつになると池の水は干上がる。

枯れ木に火が点くと燃え、枯れ木がなくなると火は消える。

風が吹くと海は荒れ、風が止むと海は穏やかになる。

悲しむと涙がでるがそのうちに涙が止まり悲しみも和らぐ。

思い通りにならない場合、怒りが心に満ちるがそのうち怒りも静まる。

幸福と思える事も長くはない、そのうちに不幸と思えることが起こる。

不幸と思える事も長くはない、そのうちに幸福と思える事が必ず訪れる。

このようにすべての現象に永遠なものはない、必ず始まりと終わりがある。

今の不況も徐々に和らぎ、いずれ景気が良くなる時が来る。希望を持って精進を怠れずに生きることである。

多くで言われている死後の世界である天国や地獄はまったく存在しない。極楽浄土はこの世にしか存在しない。今生きていることこそが幸福である。不幸は存在しない。何を言わんかである。

現在の人間は天国と地獄が存在すると信じている人が多い。それは様々な宗教に依存したことであろう。宗教には善と悪が存在し、善行した者は天国に昇り、悪行した者は地獄に落ちると考えている。シメール人は天上には神が住み、人間が死後に行く冥界は地の下にあると考えていた。人間は死んだら、地の下にある暗黒の二度と戻れない冥界に行き、粘土を食べる所と死後の世界を覗いていた。なぜそう思ったのか、私には分からない。

肉体は滅びても魂は残るという来世・復活信仰の考え方は古代エジプトのミイラ作りなどに見られる。私はこの思想は半信半疑と考える。己の肉体は滅びるが子供をつくることで自分の遺伝子が先祖の情報とともに子孫に引き継がれる。これこそが来世であり、魂の復活なのである。

現世こそが天国であり、楽園である。なぜなら、真の幸福はあらゆる試験や困難を克服する努力や行いの中に存在するからである。大きな試験や大きな困難を超えたとき至上の幸福を感じるからである。試験や困難のない変化のない人生は退屈。これこそが地獄なのである。だからこそ、試験や困難の中に入り、それらを克服することである。空海が「山川は長くして萬世也、人は短くして百年也」と言っているように人生は非常に短い。その人生を如何に豊かに過ごすかである。それには大きな夢とか大きな目標を持ち、生きることである。大きな夢には大きな試験・困難や険しい道が待っている。それを一つ一つ諦めないで超えて行くことで、自然と真理の門に辿りつく。それを仏教では悟ると言うのである。

シメール人は神が自分たちに奉仕するために人間を作ったと考えていた。これは大変重要である。人間は奉仕の心で生きると苦しみから解放される。自分の為に生きる人は欲が深く、煩惱から解放されない。人の為に生きる人は欲が浅く、煩惱から解放される。人生で最も良い生き方は人の為になる大きな夢を持って、それを死ぬまで貫くことである。そうすれば、その人は極楽浄土を知ることができる。

【2010年11月1日】

「シメールに学んだこと（最終の追記）」

前回を最終としたが、言い忘れたことがあるので追記する。私は神の存在を否定するが宗教そのものを否定しない。旧約聖書を讀み、ユダヤ人の苦悩の歴史を知り、貧困や病気で苦しむ人を見て、その苦しみから解放させてあげたいと願うイエス・キリストは立派であり、その教えであるキリスト教も素晴らしい。イスラム教も同様である。仏教や儒教の教えに学び、人として生きることを受く。実にすばらしい宗教である。また、日本の神道を否定するものではないことを明記する。

ただ、神仏に祈るだけで幸福になれるという教えは断じて否定する。神仏に祈る行為は謙虚であり、人間の傲慢を否定することの良いことである。また、神仏に祈り、生きていることへの感謝の意を表すのは大変良い事である。このような行為は善であると考え。しかし、単に神仏に祈るだけで幸福になるとか宗教に多額の財産を寄付すれば幸福になれると言った教えは極めて悪意のあることである。

私たちが最も大切にしなければならないのは両親への敬意と感謝である。また、自分の先祖に対する敬意と感謝である。このことを毎日心に刻み、暮らすと心が豊かになる。どんな困難や試験に当たろうがそれを克服できる。どんな苦しみがあるにしてもそれを解決できる。なぜなら、36億年という遠大な時間の間生きてきた、また多くの試験を克服した記憶が我々の遺伝子情報の中にあるからである。先祖は我々の体内に存在するのであって、お墓の中にはない。だからこそ先祖に敬意と感謝を込めて、生きることである。そうすれば、いかなる困難いかなる試験いかなる苦しみをも克服した先祖の魂が自分の言動に力を与えてくれるのである。幸福への近道は両親や先祖に対する敬意と感謝に満ちた暮らしをすることである。

一 章

「信念」に学ぶ

「2011年1月1日 「賢者」TVに出演する」

新年、明けましておめでとございませう。今年が飛躍の年になるようにさらに精進したいと思ひます。

さて、賢者、TVから突然の出演依頼があり、「時代を創る500人の改革者たち」と言うテーマで11月下旬に収録されました。それが元日からインターネットで放送されることが決まり、新年早々縁起が良く、大変楽しみにしていました。

私は常に変わらぬ、当社の目的はソフトウェア開発を促して社会に貢献することですが、その前に人を育てることが私の使命と感じ、将来に繋がる人材育成を最優先で行っています。これからも人材育成を頭に経営していく所存です。

ITの役割は社会活動に大変重要な役割になってきました。当社はその期待に応えるためにさらに努力していきます。ITが産業界のコーンゲンの役割を果たすようにITの可能性を追求していきますので皆さまの温かい支援を賜りますようお願い申し上げます。最後に皆さまのご多幸を祈念します。

「2011年1月2日 「IT業界の現状と今後」

平成23年がどのような年になるのか、それは誰も分からない。円安に向かうと日本の景気は回復するだろう。円高に向かうと景気回復は遠のく。我々のIT業界は企業景気の景気回復に依存しているから円安に向かうことを願う。

情報処理機構に接移に行ったときに、「IT人材白書2010」を頂いた。そのIT人材白書を見るとIT業界の現状が分かる。そのポイントとは次のように纏められる。

(1) 2008年には情報処理サービス産業の従業員は85万8千人、年間売上高18兆円になっている。1980年代の32万人、売上高が6兆円と比較すると倍以上の急激な成長となっている。これは質より量を求める結果となったことの裏付けにもなる。

(2) リーマンショック以降、90年ぶりの不況となったことで、IT人材が大幅に余る現象となっている。しかし、IT企業側では高度なIT人材の不足感は依然高い。またユーザ側のIT人材需要は、量・質の両面において不足感が強いとなっている。

(3) ベンダー企業のプロジェクスマネージメントやアプリケーションスペシャリストに対する需要は減少している。代わりにクラウドなどの新たな技術の登場に伴い、ITスペシャリストが増加し、ITアウトソーシングの需要が増え、ITサービスマネージメントが増えている。

(4) 中国、インド、ベトナムなどのアジア諸国では、ITサービス産業が急成長を遂げている。不況で日本からのオフショアが減速したが、長期的には日本からのオフショア開発は増加する。それに伴い、日本の技術者は国際化に対応できる能力も身につけていく必要があり、下流工程しかできない日本人技術者は必要なくなる。

(5) ITSSは90%以上大手SI企業が専入し、人材育成が浸透したフェーズにあり、IT業界の3Kも無くなっているような調査結果になった。UISSはこれからの段階である。

(6) IT技術者は現状の不満より将来への不安を強く感じている。企業側は自社の方向性と将来ビジョンを明確に伝え、IT人材が産業や企業の魅力を感じ、誇りを持って生き生きと働ける環境を創り出すことが重要である。

このようなことがIT業界の現状と今後である。いつの時代であっても、人材育成は国家社会の問題である。福次諭吉は「生れながら貴賤上下の差別なく、唯学問を勤て物事をよく知る者は貴人となり富人となり、無学なる者は貧人となり下人となるなり。」と言っている。私の考える人材育成とは学問する道へ誘うことである。学問する喜びを知ると、その者は自立したことになる。その者たちは正しく生き、国家社会に良く役に立つ。

【2011年1月3日 「日本を明るくする提言」】

日本の未来に希望と夢を抱いている人はどの位いるのだろうか。多少少ないのではないだろうか。多くの人が未来に希望を持たなく、不安を感じている。その原因は次のようなことに問題があるからである。

1. 人間不信

2. 政治混乱と政治不信
3. 財政赤字
4. 福祉負担増
5. 少子高齢化
6. 産業と地方の空洞化
7. 構造的不況と若者の就職難
8. 円高
9. 新興国の台頭
10. 世界の人口爆発
11. 資源高騰と資源枯渇
12. 地球温暖化と地球環境破壊
13.

どれをとっても解決することは非常に困難なことと思うであろう。ならば、希望を捨て、諦めなければならないのか。そんな事はない。すべての人が釈迦のように修行を積み、悟りを開けばすべての問題は解決できる。

私は政治家でも宗教家でも科学者でもない。私は経営者である。経営者の視点で考えれば多くの問題を一点突破から解決できるのではないだろうと考える。私は志を持って、無の状態からITバブル崩壊寸前の時に起業した。それから11年が経過したが当社はリーマンショックでも生き残っている。なぜなのか。それは人材育成を推進し、黒字決算に執着したから、生き残ったのである。すべての経営者が人材育成と黒字決算達成に執着すれば冒頭の多くの難問は解決できるに違いないと私は考えている。

平成22年10月財務省発行の「税制について考えてみよう」のパンフレットによると日本には法人が約260万社ある。その260万社の法人の内、平成20年度の欠損（赤字）会社が71.5%に達する。私はこの事実を目を疑った。私は創業以来11年連続で黒字経営しているからである。これは私一人で実現したのはでない、社員一丸で実現したのである。

決算を赤字にすることは誰でもできる。しかし、恒常的に会社を赤字にすることは簡単な事ではない。常に知恵を出し、勇気を持って企業改革、自己改革をしなければならぬ。経営者も従業員も犠牲的な奉仕を実践しなければならない。常に新しいことに挑戦しなければならない。目先の欲を捨て、子孫孫の繁栄を意識しなければならない。

生意気な発言であるが、多くの経営者よ、徳を積み人格向上に努めようではないか。若い人を育てようではないか。黒字決算に執着しようではないか。そうすれば若者達の未来は希望に満ち、この先の国家社会は必ずや繁栄する。

【2011年3月8日 一日一話 「狭き門より入れ」】

昨年9月から半年を掛け社員個人面談を行っていたが先週で終わった。昨日は窓の外に季節外れの雪が降った。久しぶりに書きたい気分になった。

私は新約聖書の一節にある「狭き門より入れ」という言葉があるがそれが好きだ。マタイによる福音書の第7章を引用する。

「この狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはいつて行く者が多い。」この命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。

私は創業してから、楽な道と険しい道の岐路に立ったとき、必ず険しい道を選んできた。なぜ、険しい道を選んだかというと35年以上前に浪人していたとき、勝海舟の住んでいた跡地の予備校の校長が難関大学を自指せという意味で「狭き門より入れ」と話したことが何時も心に残っていたからです。

この業界の人達は広き門から入る人が多いと感じている。また、リスクを負わない人も多い。その割には不満だけを言って、生きている自分、他人、会社や社会を変えようためには困難に立ち向かう生き方が必要なのである。2000年前に作られた言葉とは思えないくらい素晴らしい。

貴方はどちらの門に向かっているのか考えてください。もし、間違いに気付いたならば、修正してください。そうすれば、貴方も周りの人も生きる喜びを感じることが出来ます。

【2011年3月10日 一日一話】「親の気持ちをj知る経営」

新約聖書「マタイによる福音書」の第7章にこんなことが書いてある。

「『あなたがたのうちで、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があつたか。』
「『魚を求めるのに、へびを与える者があつたか。』
このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をするjことを知っているとすれば、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあつたか。』
だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそれとおりにせよ。これが律法であり預言者である。」

子を思ふ親の気持ちを持つて、他人にも同じことをしなさいと書いてある。女性が子供を産み、母親になったときから、子供を育てることに命を掛ける気持ちが強くなる。

母親は母親の愛する子供に辛く当たる会社や会社の上司に牙を向けるだろう。母親は社員を粗末に扱う会社を恨むだろう。そんな会社が繁栄するだろうか？決して繁栄しない。この業界にも親の気持ちを踏みにじるような会社が少なからずある。それらを称してブラック企業と呼ばれている。

多くの人が安心して仕事を行うためにはブラック企業と呼ばれる会社に正しい経営を教えることである。また、ブラック企業と呼ばれるような会社にしか就職できないような無知無能な学生を少なくすることである。

私は親の気持ちをj知る経営は祝福と繁栄が約束されていると硬く信じている。多くの会社がこのことを知り、実践すると社会は希望に満ち溢れるだろう。国の多額の債務も減少していくに違いない。私はそう信じている。

【2011年3月18日 一日一話】「信念が事をなし遂げる」

多くの人がこのような大震災の中で心配、不安、恐怖を感じている状況です。このような時にこそ平常心、不動心を養うことが必要かと思jいます。そこで尊敬する松下幸之助の信念を31回に渡り紹介し、個人個人が高貴な人格になるように、また自己完成できるように信念を会

得 実践してほしいと思います。また、隣人を含む社会に対して「奉仕する強い気持ち」を持って生きて欲しいと願います。

「信念が事をなし遂げる」

事にあたっていちばん重要なのは、「これは絶対にやり遂げる」という信念をもつことである。そうしてはじめて新たな知恵やアイデアが生まれ、どんな困難も乗り越えることができる。何事にも強い信念をもつて取り組みたい。

今月の21日で創業してから11年を迎える。しかし、創業からこれだけは絶対にやり遂げたいことがあるが、実現していない。

1. 最高の技術を持つ社員を多く育成し、奉仕を美德と感ずる社員に成長させ、世間様から良い会社と言われることである。

2. IT業界から3Kを追放し、IT業界に優秀な人材が集まってくることである。

3. インターネットの普及で分かるように、ITはいろんな可能性を秘めている。ITがすべての産業から重宝され、新しい価値観を黎明させることである。

知恵やアイデアを駆使し、これら実現できるように努力していきたい。

【2011年3月22日 一日一話 「勇気をもってやってみる」】

『勇気をもってやってみる』

ある程度考えたあとは、勇気をもってやってみよう。

いたずらに躊躇していても事は成らない。

無慈悲、無計画はいけないが、考えているばかりでは時間や労力を浪費するだけ。

思い切って、まずは実行してみるこゝである。

ちょうど11年前の2000年3月21日に法務局鴻巣出張所に会社の登記を行った。資金も少なく、司法書士に頼まず、定款も自分で書き、法務局に提出したが、事前に公証人役場で定款認証を受けなければならないと浦和にある公証人役場で認証してもらい、再度提出した。会社設立も無知であった。だからこそ、会社とは何かを深く考えることになった。

また、行田にあるハローワークに行つて、社員雇用保険を申請したとき、なぜ最もリスクのある社長は雇用保険に加入できないかと担当職員に尋ねたら、会社役員は会社から逃げられないから加入できない。社員は逃げられるから雇用保険に入ることができると分かったような分からないような回答であった。結局会社経営は自己責任なのだと知った。

前に進めば進むほど、会社は法律を知らなければならないことを知った。商法、労働法、民法など会社経営に関する法律を勉強した。法律を勉強すればするほど、法律は字面に正しいのではなく、中層的に問題解決を模索した結果であることを後日理解することになった。多くの人々は法律の本質を知ることなく、生きそして死んでいく。その点で言えば、私は多くの人よりは幸せなのかも知れない。

社会は善でなければならない。その為には会社が善でなければならない。極悪非道のような経営は社会と人の心を荒涼にしてしまう。そんなことはいかん。私の唯一の夢は良いと言える会社を作ろう。それだけだった。その時、44歳、住宅ローンがあり、6歳と2歳の子供がいる4人家族の普通の家庭を持っていた。起業する資金さえもなかった。ただ、唯一あるのは他人には無縁と思われる夢だけであった。失敗したら家族を犠牲にすることは十二分に承知していた。ただ、人生は一回しかない。怯えて生きても家畜と同じ。私は家畜ではない、私は知能も持った人間である。人間だけが夢を持ち、困難な言葉ができるのだ。私は常に人間でありたい。私は夢だけの実現のために勇気を持って、起業という冒険に旅に出た。

『夢は必ず実現する』

心に描いた夢は必ず実現する。それが自然の理に反したものでないかぎり、実現不可能ということはない。

そう考えれば、次々と意欲が湧き、日々の苦勞や困難が喜びややりがいに変わってくる。

夢は必ず実現すると信じて、一步一步着実に歩んでいきたい。

松下幸之助 「信念」より

「夢は必ず実現する。」この言葉は大好きです。7年前、息子の中学受験で池袋立教中学や麻布中学などの学校説明会に行きました。その時、どこの中学が忘れましたが在校生に話を聞ける機会がありました。その時、私はその中学生に君の夢は何ですかと尋ねたら、私はパイロットになることですとさっぱりと答えました。私は夢を実現できることを祈っていると伝えると「ありがとうございます」と礼儀正しかったです。私は清々しい気持ちになった。

歳月が流れ、知り合いの依頼で昨年ある大学の学生に情報リテラシーの臨陣講義を行いました。その時、学生に質問しました。君達の中で将来になりたい職業とか将来の夢はありますか。そうすると受講している1割が挙手しました。残りの9割には将来の展望が見えないのでしうか？

私の息子は小学生の頃は弁護士になりたいと話していましたが、来月から法学部の学生になります。しかし今どんな夢を持っているのか私は知りません。娘は中学校の吹奏楽部でユーフォニウムという気鳴楽器を担当していますが、歴史の浅い楽器であるユーフォニウムを多くの人に知ってもらう活動を将来したいと話しています。

私はこれまでに多くの夢をこに背いてきましたが、私は夢を実現するために多くの人に自分の夢を語り、自分を追い込むようフレッシュな自分をかけています。夢を実現することを難しいと思っている人が多いですが間違いです。最後まで諦めなければ、夢は実現できます。決して諦めないことです。私の長所はスッポンのように食いついたら離さないことです。

貴方には夢がありますか？ 貴方に夢がなければ、貴方の子供にも夢がないということを理解してください。多くの大人に夢がなければ、多くの子供たちにも夢がないことを理解してください。希望ある未来を作るのは子供たちではなく、今社会で活躍している貴方なのです。

【2011年3月25日 一日一話】『自分なりの人生観を持っているか』

人間としての正しいあり方とはどういうものか。人はどう生きて行くべきか。

そうした自分なりの見方があれば、そこから醸成たる信念が生まれ、知らず識らずの内に言動に現れてくる。自分なりの人生観、世界観を持ちたい。

松下幸之助 『信念』より

2000年前、ユダヤ人であったイエス・キリストはユダヤ教の問題点を深く考え、モーセの十戒を守れない人でも神は見捨てない。天国に行けると貧しい者、弱い立場の者、病に患っている者に希望を与え、正しい道の教えを説いて回った。一方権力者には権力を捨てよ、富める者には富を捨てよと囁みつけた。権力者は弱い者を助け、富める者は貧しい者を救う。これが正しい社会であると思っていたのであろう。イエス・キリストはこのような人生観を持っていたのであろう。その後のキリスト教では「愛」を主題と考えている。「愛」とは「犠牲を伴った奉仕」と私は解釈する。

私は自然の摂理に沿った生き方を前提に言動している。知能を持った人間はまず、相手の事を考えなければならぬ。思いやりや優しさを持って相手に接しなければならぬ。これを佛教では仁という。経営は仁の実践であると信念を持っている。さらに当社の最も重要な事は人を育てることである。

昨日、若者を採用する為に面接した。良い大学を卒業しているが高校からアルバイトにのめり込み、大学を卒業しても深夜のアルバイトや日雇い作業で未来のない生き方をしている。彼には正しい生き方が分かっていない。まったく、人生観がないように見受けられた。私はアドバイスした。これまで大変な苦労を掛けて育ててくれた両親に感謝の言葉を伝えてください。そして、貴方は私の言いたいことが分かるで

しょう。それが社会人としての始まりになるでしょう。

若い時には分からないことだが、いろんな荷物を背負った中高年になると誰でも腰が低くなる。ならば、若い時から感謝の気持ちを持ち、谦虚な気持ちを持って、生きるべきである。それが人生観の土台となる。

【2011年3月28日 月 一日一話 「己を知れば己が強い歩み」】

お互い、ともすれば「隣が店を改装したからうちも」あそこが人を雇ったから自分も」となりがち。

しかし、自分の力を越えることをしては、往々にして失敗する。

まず、己の力と適正を正しく把握しよう。

そうしてこそ、自分の道を力強く歩むことが出来る。

松下幸之助 「信念」より

多くの人間は自分を大きく見せようとその事にだけ努力して、本来の地道な努力を怠る。だから、他人の事が気にかかる。今、リクナビ Next に採用募集の広告を掲載している。この募集の中心は社会人経験者である。なぜ、中途採用なのか。日本の企業は新卒採用には温かいが中途には大変厳しい。たとえ、採用されても将来企業を中心に重用されることは稀である。封建制度で外様大名と言われる処遇と同じである。つまり信用されない。人生選択、職業選択に失敗した人に少しでも光を当てることが大切かと思ひ、創業以来中途採用に拘ってきた。しかし、中途採用にはいろんな問題がある。1. 自分を良く見せようとする傾向が強い。

謙虚、素直ではない。応募者のレジメを読むと、自分の良い事だけしか書いていない。また、転職を繰り返しているのに「私は最後まで諦めない自信があります」と書いてある。「私は音楽が好きです」とか「落語が好きです」とか書いてあるが当社では芸能プロダクションでも落語協会でもない。ソフトウェア開発会社である。音楽が好きならば音楽家になれば良い。落語が好きならば落語家になればよいではないか？

一流のプロだけがその職業で食えることができる。それは才能より、血のにじむような努力が背中に隠れている。

多くの人が会社員は会社員が守ってくれようと思っている。日本は労働者には恵まれた国である。だから日本は国際競争に負けていつている。これからの時代は現状の自分を素直に見つめ、誰もが謙虚に血のにじむような努力を素直に思わなければならない。

2. 感謝がない。採用内定したときには救われたと思い、感謝があるが、歳月はその感謝を忘れ、中には憤懣な態度をする者も現れる。こんなときにこのような者を採用した自分を笑う。

3. 青い鳥を求める傾向にある。転職を繰り返す人の特徴は他力本願で、自力本願ではない。常にほかの所に青い鳥がいるのはでと心が落ち着かない傾向にある。

転職を考えている人はまず、自分の能力や適性を十二分に考えて、再就職を考えるべきである。また、転職先を良く調べ、目先で転職してはならない。レジメには現状の問題点と転職後解決したいことを書いた方が私の心に響く。

最後に、私は社員に資格を取らせている。資格は自分自身の努力でしか合格できない。仕事は自分の実力がなくても他人の力を利用できる。それでそこそこ仕事をこなせる。それを自分の実力と誤解する馬鹿もいるからその者には叱咤する。

目標に向う地道な努力が自分と周囲の心を浄化する。

【2011年3月29日 火 一日一話 「わが事としてあたる」】

みずからに与えられた職務や使命は自分が経営者として「経営」していくのだという気概をもちたい。他人に期待し、依存することなくわが事としてあたることに、おのずと真剣さが生まれ、仕事の能率も高まってくる。

松下幸之助 「信念」より

人間学を学ぶ月刊誌「到知」があります。4月号の記事の中にあったトールコーヒー名譽会長である島羽博康氏の連載記事に目が留まり

ました。記事のタイトルは「出でよ、卓越した国家経営者！」というものです。彼は私財を投じて「救国サロン」をつくり、様々な政治家を招いて国家の筋道を構築している。これまで政治家は国家・国民のことを他人事として政治を行ってきた。その結果、1000兆円という莫大な借金を未来に残している。このままいくと間違ひなく破綻する。破綻すると国債が暴落し、国の予算を税収の範囲内に圧縮しなければならぬ。これでは国家運営は非常に厳しくなり、社会は相当混乱する。これは政治家も財界も無責任。この事実を知って改善する方向に動かない官僚も無責任。一億人皆無責任という誠に嘆かわしい状況であると書かれている。

また、ドトールコーヒーが上場したときに、大手銀行で支店長を歴任した優秀な人を経営に加えたが、銀行の支店長時代に幾度の倒産を見てきたが、銀行は潰れないから実感として倒産を理解できない。人間というのは実際にその立場に置かれないうと物事を真剣に受け取れないものだと思はれた。

私は今は経営者であるが以前はシステムエンジニアであった。システムエンジニアとしてお客さんの立場を尊重し、また会社のことも考え常に粗利のことも考えた。お客さんと経営の中庸に位置するのが給与も貰う立場の会社員なのである。だからこそ、一円の残業代も貰うことなく、身を粉にして働いた。私には当たり前のことであった。それが今考えると価値ある肥料となった。そんな当時の思考が今の経営に大変役に立っている。

多面的な視点から物事を見、いろんな立場で考察できることが優秀な人材の必要条件である。

【2011年3月30日（水） 一日一話】『真の商売はお客さんのために』

「どうすれば儲かるか」という考えで商売しても、一応の成果をあげることはできるだろう。しかし、それは真の商売ではない。「どうするか」がお客さんのためになる」という確固した考えたかに立って判断し、事を行ってこそ、真の商売である。

松下幸之助 『信念』より

当社の創業当時の大恩人である水野秀樹さんが昨日来社された。今月末でサラリーマン人生を終わるということの挨拶で、今後のことはじっくり考えてから再出発をしたいということであった。昼食をとりながら、昭和63年の頃に一緒に仕事したことや平成12年2月に数寄屋橋にあるニュート・キョーの高尾での全蔵なご懐かしい思い出を語った。歳月の過ぎるのは早いものだと思つた。別れる時に水野さんと一緒に新しいことに挑戦したいと互いの交流を約束した。

彼と一緒に参加したプロジェクトは私の生涯でも巨大で最高難度のものであった。兎に角、24時間仕事をしていた。

私は何時もプロジェクトに参加するときは価値ある最高級の品質に拘って開発してきた。なぜなら、お客さんに最高の喜びを与えたいと思つていたからだ。また、ソフトウェア開発は長さ、面積、体積、重さなど数値化できる建築などと違い、工学でできない部分がある。ソフトウェア開発には芸術的な要素も含まれている。私はいつもお客さんに喜んでもらえるように獨創性にも拘つていた。そんなソフトウェア開発を十二分に發揮できるソフトウェア開発会社にしよと人材育成に拘りを持っている。それが真の商売に繋がると考えているからだ。

【2011年3月31日（木） 一日一話 「道は無限にある」】

もう手がない、万策尽きた。そう思うときでも、どれだけの対策を講じたのか、もう一度考え直してみよう。どんな困難でも、必ずのり越える道はある。要はその道を見出せるかどうか。やればできるという信念をもつて取り組み、きつといい方策が見えてくる。

松下幸之助 「信念」より

3年前の9月にサブプライムローン問題に端を発してリーマンブラザーズの経営が破綻した。それによる信用不安が全世界を駆け巡り、経済が委縮していった。100年一度の大不況が始まり、その不況は長く続いた。当社の上にも徐々に暗雲が垂れこみ、作業依頼は減少傾向が長く続いた。どうしたら良いのか、途方に暮れた。しかし、「この道は無限にある」を思い出し、今できるあらゆる可能性を試した。それは必死のものであった。その必死が昨年未まで7社の新規取引に繋がった。既存取引の減少を補い、さらに希望ある未来へと繋がってきた。

2010年度が今日で終わる。売上高が前年度対比11%増えた。創業以来続けていた黒字決算も達成できそう。11年連続で法人税を納税することができる。さらに来年度は明るい兆しが見えている。

また、2年前の5月から公認会計士に依頼し、上場するために必要なことを整理している。さらに昨年の4月に企業構造改革を社員に任せ実施した。そして、事業に関わることを社員の自主性に任せ、私は口を出さないようにしている。経営のリスクはあるがリスクばかりを気にしたら、人が育たない。社員全体がエンジニアでは企業の成長はありえない。とにかく、社員の行動に三猿を徹して、成長を貫守っている。

【2011年4月1日（金） 一日一話 「人みな磨けば光る素質がある」】

人はみな、磨けば光るダイヤモンドの原石のようなものである。しかし、そのすぐれた本質も、磨かなければ発揮できない。これを正しく認識し、お互いの持ち味が存分に活かされる道を求めあっていきたい。

松下幸之助 「信念」より

人生が半ばを過ぎ、人生がうまくいかない中高年の多くが若かりし頃、もっと勉強していれば良かったと異口同音に話す。そして、自分の子供にもっと勉強しなさいというのがその言葉に子供達は反発反抗するのが世の常、人の常である。

先人の中で大きな業績を作り、歴史に名を残した人は物事の本質を知っている人である。物事の本質を知ろうとする好奇心こそが学問の始まりで、それを探求していく過程でいろんな知識も必要になってくる。勉強と学習は探求の基礎となる。

人生の中で未だ好奇心をそのテーマを見つけていない人は今の仕事をがむしやりに努めることである。そうすれば、好奇心が見えてくる。それでも見えないと言う人がいるならば、がむしやりに努めていないことになると思えばよい。だから、がむしやらを最後まで諦めないように信念を持たねばならない。そうすれば、人生が、生きる本質が見えてくる。

当社ではIT系の資格はもとより、他分野の資格も奨励している。それは実現しようとするシステムを優良なものにするためであり、研

究開発では多面的考察ができるからである。

新しい年度が今日から始まる。経営者には今日は元旦となる。毎年、同じことのようを繰り返しているようだが、まったく異なる。多様な苦勞は人間を磨き、会社を磨いてくれる。苦勞するために今年度も新たな挑戦を始めなければならない。

【2011年4月1日（火） 一日一話 「難問 難題を受けて立つ」】

常に何らかの問題がふりかかってくるのが人生というもの。いつでもそれに向かう勇気があるか、受けて立つ覚悟があるか、自分自身に問いたい。そうした勇気と覚悟があつてはじめて、難問、難題を克服し、経験のみずからの血肉にしていけることができる。

松下幸之助 「信念」より

今度の震災は戦後最大となり日本人に大きな苦難を与えた。これからどうなるのか分からないと難問を突きつけられたようなものである。被災者の未来は、被災地の復興計画は、原子力発電とエネルギー政策の未来は、首都圏のエネルギー確保は、東北地方の産業の未来は、財政再建の未来はなにと難問が山積みされている。

東京電力福島第一原子力発電所の事故の国際評価が最も深刻な「レベル7」まで引き上げられた。これは政府の無能さにより国内、海外ともに日本の安心安全の信用を失墜させ、産業界に大きな不安をもたらしている。これでは原子力発電の継続は不可能に近いと思わざるを得ない。これは政府に勇気と覚悟がなかったからである。これを教訓に政治家も公務員も勇気と覚悟を決めた言動に徹底してもらいたい。

雑誌「致知」を読んでいると青山千春博士の記事が目とまいった。地震の多い国にはメタンハイドレートというエネルギー資源が豊富にあり、日本の海底にも豊富にメタンハイドレートが眠っている。メタンハイドレートがあるところには蟹が沢山集まるようで、奥尻や新潟あたりにも多く分布している。

紀伊半島周辺海域のちよつとした部分だけでも日本が使用している天然ガスの14年分のメタンハイドレートがあり、日本の周辺を調べた

ら、100年分以上のエネルギがあるだろうと言われ、その額が120兆円にもなる。日本は資源がない国と言われてきた。メタンハイドレートのあるところにはレアメタルも多くある。日本は資源国家と言える。この資源を生産ラインに合う価格で採取できれば、大きな国益になるだろう。そのためには海底資源発掘技術にきちんとした国家予算を付け、開発する必要がある。私とは畑が違ってから難易度も分からないが、難関、難関を克服し、国家のエネルギ政策に希望を与えてほしいものである。

私は社員に難易度の高い仕事をしなさい。それは大きな資産になる。それに技術革新に対応できる人材になる。難関に挑戦することは狭き門から入る生き方につながると社員を教育している。

【2011年4月19日（火） 一日一話 困った困ったでは知恵はでない】

困った、どうしよう。そう考え出せば、心が次第に狭くなり、出る知恵も出なくなる。

だから、困っていても、困らないことである。

困難は新しいものを生み出す一つの転機だ、断固としてやろうという想いを持って取り組むところに、思いもかけない道がひらけてくる。

松下幸之助 「信念」より

人間は苦境に陥ると困ったどうしようと思いを抱えて苦しむ。不況で仕事を受注できない時こそが経営者には一番苦しい。2008年9月に起こった投資銀行リーマンブラザーズの破綻による世界金融危機からの世界同時不況が太平洋の向こうから広がる巨大な暗雲となり我々の上にも覆いかぶさってきた。過去に経験したことのない恐怖を感じた。これからの資金繰り、雇用維持、新規受注など将来の事を考えると漆喰の間に突き落とされたような気分になった。これからどうすればよいのかと頭を抱えた。何もしないで終わるより可能性のあることにすべて挑戦しよう。そして国や自治体の入札にも初めて参加した。提案書も書いた。なんでもやった。必死でなにか行動していると不安や恐怖も和らいだ。時が流れて行く。その時の流れの中でこれまで取引していない会社から新たな仕事の依頼もあった。それが連鎖しているか

のように続いた。そんな時、天は我を赤た見捨てていないと天を仰ぎ感謝した。

【2011年4月20日（水） 一日一話 「何度も言い聞かせる」】

いくらやりがいをもって仕事をしていても、ときに人はくじけそうになる。そんなときは、いま一度自分の信念や使命感を思い起こしてみたい。そして何度でも自分に言い聞かせたい。そうしてこそ、みずからの思いはさらに強く、揺るぎないものになっていく。

松下幸之助 「信念」より

創業して4年目の頃、私は坂井泉水（ZARD）の「負けないで」をよく聞いた。取引先の極悪非道な態度に、怒りを伴う安堵できない日々が続いた。信念や使命感を持っていた心も折れそうになった。誰もそんな心模様を分かるはずもない。坂井泉水の「負けないで」の歌詞は心を奮立たせた。音楽は人の心を安らかにし、勇気と希望を与えるものだと感じた。以下に歌詞の一部を紹介する。

負けないで

もう少し 最後まで走りぬけて

どんなに離れてても

心はそばにいるわ

追いかけて はるかな夢を

負けないで

ほらそこに ゴールは近づいてる

【2011年4月21日(木) 一日一話 「これが自分の運命と骨格する」】

大事に臨んでこれを切り抜かれる人は、悩みや困難に出逢ったときに、いたずらに動揺することなく、これが自分の運命なのだという覚悟のできる人である。与えられた境遇を嘆いても始まらない。そのなかでいかに全力を尽くすが成否を分けるのである。

松下幸之助 「信念」より

若い社員と酒を飲むと全話に参加できないことがある。パチンコやスロットに「エヴァンゲリオン」なる種類の機種があるようだ。「エヴァンゲリオン」は「新世紀エヴァンゲリオン」のことである。

1995年10月4日から1996年3月27日にかけてテレビ放映された全26話のアニメである。監督は庵野秀明で、新世紀エヴァンゲリオンは彼の代表作であるという。私はこのアニメを見たこともないのでチンプンカンプン。新世紀エヴァンゲリオンの物語は難解であるというからこのエヴァンゲリオンを勉強した。

宮崎駿監督の「もののけ姫」は今から5000年前のメソポタミアのシュメール人により書かれた人類最古の叙事詩「ギルガメッシュ」を意訳して作ったと言われている。同様に「新世紀エヴァンゲリオン」のエヴァンゲリオンは古代ギリシャ語で良い知らせ(福音)と言う意味であり、ラテン語表記「EVANGELION」に由来している。簡単にいうと新世紀エヴァンゲリオンは旧約聖書の物語を意訳して書かれているということである。また、この物語で登場する使徒は「NEBU(ネルフ) 本部のある第1新東京市に襲来する謎の生命体の呼称である。ここに登場する18の使徒は紀元前1世紀頃成立と推定されるエチオピア正教における旧約聖書の1つであるエクノ書の天使名に由来している。

このようなことを背景に物語の主題を考えるとどのような福音があるのかを考えればよいことになる。主題はエヴァンゲリオンを操縦する

主人公である碓シンジの心に成長の変化にある。エヴァンゲリオンを操縦して使徒と戦うのは碓シンジの運命であり、それから逃げることは決してできない。逃げるほうがもつと苦しい。与えられた使命を全力で尽くすことが生きることの本質なのである。だから己から逃げることなく使命を尽くさなければならない。そのとき初めて神の福音を聞くことができ、また祝福される。

【2011年4月22日（木） 一日一話 「正しさを問ひ、正しさに従つ」】

仕事をしながら、自信の無い事に取り組んだり、人に言にくいことを言わなければならない事がある。

そんなとき、何が正しいかを”考え、正しさにもとづいて行動するのだと決意したい。

その決意から、敢然とこれを行う勇氣と力が全身にみなぎってくる。

松下幸之助 「信念」より

人間が生きている間には、思い通りにならないこと、不安になること、恐怖を感じることなど不幸と思われることがこれでもかと思つほど降り注いでくる。自分だけが特別に不幸になっているのかのように錯覚する。それは間違ひである。1000年前に生きた人は天災や病氣や戦争や飢饉に怯えていた。今生きている人達は1000年前の人々より不安や恐怖はずっと少ない。古の人には死は日常であつた。だから生きることに執着したと感ずる。

現代人は病氣になると医者に行く。医者が処置できないような患者は受け入れられないと断ると「たらい回し」されたと自分のことを棚に上げて行政や病院を責める。わがままになつてゐる。

以前、遺伝子カウンセリングのNPOで講演を聞いていたら、遺伝子カウンセリングは劣性遺伝で不遇な子供が出生する可能性などを相談することのようだった。不遇な出生でも周囲の愛情が満ちていれば不幸な運命をたどらない。五体満足でも周囲の愛情が少なかったら、不幸な運命が待ちかまえてゐる。ヘレン・ケラーは人間が生きる上での基本的機能がなくても、周囲の愛情の深さと自分の努力で多くの人達に希

望と勇気を与えた。また、生まれながらに盲目でも辻井信行さんのように天才ピアニストになれる。

ヘレン・ケラーのように不遇に生まれた人は何が正しいかより知ることができようと思う。正しさは不安と恐怖の上にしか存在しない。五体満足で存在する人はもつと不安と恐怖に立ち向かい、それを超えなければならぬ。その行為の中に正しさがある。

【2011年4月26日（火） 一日一話 『適正利潤は尊い義務』】

利潤を確保してこそ、新たな投資を行って仕事を更に発展させより多くの人の役にたつ事ができる。

税金を納めて社会全体の繁栄に寄与する事もできる。

適正な利潤をあげることとは、お互いの尊い義務と考えて日々の仕事に取り組もう。

松下幸之助 『信念』より

私は創業以来、法律を守り、社員を大切に、顧客に感謝し、思いやりを意識した行動を貫き、正しく税金を納めてきた。なぜなら、会社は継続しなければ、なんの意味もないからである。

企業や社会が発展する条件はすべての人が善なる行為をすることである。自分と他人に虚偽をするならば、社会は暗黒に向かだろう。自分と他人が努力しなければ、社会は荒涼となり、生きる希望を失くし、人間として生きることが無意味となるだろう。

私は経営者である限り、墨字決算に拘る。赤字決算は誰でもできるが、墨字にすることは容易ではない。努力と知恵がなければ、達成できないからである。それを達成しようとする言動が人間を成長させ、人間たる所以に至る。それを仏教では「悟り」と呼ぶ。臨終までには生きることの意味を理解し、人生を悟りたいと思っている。だからこそ、タンポポが種の繁栄を願い、綿毛に託すように、企業は知恵を使い会社を大きくする努力をする必要がある。社員も正しい仕事や正しい事業を意識し、正しい納税を意識して、精進を怠れず、社会全体に寄与しなければならぬ。

物事は自分自身の信念にもとづいて考えなければならぬ。だが、それにとらわれてはいけない。常に素直に、謙虚に人の意見に耳を傾ける。確固とした信念とともに、そうした姿勢をもっていれば、事はたいていうまくいく。

松下幸之助 「信念」より

松下幸之助は人生で最も重要なことは「素直」であると言っている。この素直を理解して実践することは簡単なのだが容易ではない。PHPのホームページに素直な心の内容が記載されているので引用する。

第1条 私心にとらわれぬ

素直な心というものは、私利私欲にとらわれることのない心、私心にとらわれることのない心である。

第2条 耳を傾ける

素直な心というものは、だれに対しても何事に対しても、謙虚に耳を傾ける心である。

第3条 寛容

素直な心の中の内容には、万物万人いっさいをゆるしいれる広い寛容の心というものも含まれている。

第4条 実相が見える

素直な心というものは、物事のありのままの姿、本当の姿、実相というものが見える心である。

第5条 道理を知る

素直な心というものは、広い視野から物事を見、その道理を知ることのできる心である。

第6条 すべてに学ぶ心

素直な心というものは、すべてに対して学ぶ心で接し、そこから何らかの教えを得ようとする謙虚さをもった心である。

第7条 融通無碍

素直な心というものは、自由自在に見方、考え方を換え、よりよく対処してゆくことができる融通無碍の働きのある心である。

第8条 平常心

素直な心というものは、どのような物事に対しても、平静に、冷静に対処してゆくことができる心である。

第9条 価値を知る

素直な心というものは、よいものはよいものと認識し、価値あるものはその価値を正しくみとめることができる心である。

第10条 広い愛の心

素直な心というものは、人間が本来備えている広い愛の心、慈悲の心を十分に發揮させる心である。

【2011年4月28日（木） 一日一話 「世間は正しい」】

世間は、部分的には誤ることがあっても、全体を見ると正しく動いている。

だから正しい行動、正しい仕事は受け入れてくれるし、間違つていれば正してくれる。

世間の声にたえず耳を傾けつつ、迷わずなすべきことに取り組みたい。

松下幸之助 「信念」より

人類は700万年前にチンパンジーから分かれて以来、第二の遺伝子である知恵を持ったことから他の生物と異なる進化を歩んできた。中でも特筆すべきは分配する行為にある。雄のゴリラやチンパンジーは子育て中の雌にも餌を採って与えない。しかし、男は子育て中の女に食料を与える。人類は700万年間、当然のようにそれを続けてきた。強い者は弱い者を助けることができるのは人類だけである。それが大変重要なことである。

権力者には権力を捨てなさい。富める者には富を捨てなさいとイエス・キリストは立ち向かった。『権力者よ、その権力で弱い者を助けなさい。富める者よ、その富みで貧しい人を救いなさい。その行為によって貴方達は神から祝福される』と説いた。

多くのＩＴ会社の中途採用は実務経験者しか採用しないようである。しかし、私はＩＴ経験者はほとんど採用しない。私は道に迷った社会人の未経験者にＩＴ技術を習得させ、自らパンを賣える人間に育て、人の道に外れない正しい知識と知恵をも身につけてもらおうと努力してきた。私は人材育成によって、高度なソフトウェアエンジニアと心豊かな人を作ることが私の使命と考え、これまでもこれからもそれを続けて行きたいと思う。なぜなら、私は第一の道伝子である知恵を持っている人間であるからである。

【2011年5月6日（金） 一日一話 「打ち込まずして成功はおぼつかない」】

いい加減にやっていたのでは、どんなに時間をかけても成果はあがらない。

成果を得ようと思ふならば、全身全霊を傾け、徹底的に打ち込むことである。

本気になって、一つひとつなすべきことをなしていけば、必ずみのりのときがくる。

松下幸之助 「信念」より

私は子供の頃、満天の星空を眺めては宇宙の外には何があるのか空想していた。大人になってもこの疑問を捨てることはなく、宇宙に対する興味は冷めない。私はこのG、W中、4つの力（重力、電磁力、強い力、弱い力）を統一できるM理論、ひも理論、膜宇宙論などを勉強していた。M理論によると、宇宙は理解可能な四次元（三次元空間＋時間）＋未知なる8次元からなるらしい。素粒子を構成するひもの振る舞いは11次元の中で行われているということである。天文学者を名付、科学者たちは宇宙のビッグバンがなぜ起きる必然があったのかを近い将来、我々に教えてくれるだろう。

我々が住む太陽系は天の川銀河にあり、この銀河には数千億個の恒星がある。この宇宙には天の川銀河と同じような銀河が数千億個ある。

恒星は一つ以上の惑星を持つている。地球も太陽の惑星であり、金星、火星、木星、土星なども同じ太陽の惑星である。地球には生命体が確認されているが太陽系の他の惑星には生命体は確認されていない。

これまで人類は宇宙から来る電波の中に知的生命体からのメッセージがあるかを調べているが未だ発見できていない。ラジオ放送は20世紀初めから始まった。100年を過ぎた今では膨大な電波が宇宙に光と同じ速さで飛んでいる。最低でも半径100光年内にある惑星にもこの電波は届いている。逆に知的生命体が宇宙に存在するならば、彼らも同じように宇宙に電波を送っているに違いないが、知的生命体からの電波を確認できていないようだ。つまり、この大きな宇宙に人間と同じレベルの知的生命体まで進化して存在している生命体はないということになる。この宇宙の大きさの中で高度な知能を有するのは人類だけが唯一の存在なのかもしれない。

そのような事を考えると個人もすべての人類も争いごとを捨て、人類を含む生物が繁栄するために協力し、精進しなければならない。そして、永代に渡り、青い地球を守らなければならない。人間の欲望だけで人類を含むすべての生物を絶滅危惧種にしてはならないと思うG. W. でした。

【2011年5月9日（月） 一日一話 「何より信念のなさを恐れよ」】

新たに事をなそうとするときには、どうしても失敗の危険がついて回る。

しかし、その失敗をおそれて行動を起こさなければ、失敗することがないかわりに、成功を得るチャンスも失うことになる。失敗を恐れるより、やり遂げようとする信念のないことを恐れたい。

松下幸之助 「信念」より

私はこの言葉を読んだたびに、歴史に名を残した人の執念とか信念の強さに感銘を受けながら、自分はこの言葉を実践しているか検証しようと思うが、なかなか自分のことになると客観的に数値化できない。甘い主観で見てしまふ。

私は経営者であるから、事業を通して社会に貢献し、また継続して利益を生まなければならない。これが口で言うほど、簡単なことではない。ＩＴバブル崩壊、リーマンショック、東日本大震災と過去に前例のない厳しい環境が襲いかかってきた。それでも、事業を継続できたのは、創業に作った経営理念を守ってきたことにある。

先月、上海に行ったとき、観光地である明朝時代の庭園である豫園の周辺では多くの個人商店が潰きを削って商売していた。活気が溢れていた。上海市内でも個人商店が沢山あり、それぞれに知恵をたしながら生き生きと商売しているように感じた。逆に日本では商店街はシャッターが下り、錆びて、活気を失っている。大店舗やチェーン店が日本中に同じ顔で店舗を構えている。多くの人はそこに雇われているからそこには個人事業主が醸す活気が伝わってこない。日本の衰退はこの辺にあるのかと感した。

日本は世界で一番の社会主義国家であるから信念を情熱がなくても生まれる。もともと競争原理を導入した政策があってもいいのではないかと思う。そんな事を話しても多くの人には今日・明日が楽しければよい。自分たちの未来は明るいと言観論者が多いから馬に金仏かも知れない。

ただ言えることは著名になった人達は才能があつたのではなく、実現したい夢、失敗を恐れない冒険心と信念、血の滲むような努力があつたことは事実である。だから夢と信念さえあれば誰にでも成功のチャンスがあるんだ。

とかく私心は判断を誤らせる。

また、「自分だけが大事」という気持ちで事にあたつては、人の心は動かない。

私心を抑え、自他ともに生きる姿を目指そう。

そこから強い説得力が生まれ、周囲の協力も集まって、大きな成果があがつてくる。

松下幸之助 「信念」より

私はキリスト教の「愛」とは何かを考えた。「愛」の漢字語源は「力イ・心」とは、人が胸を詰まらせて後々にのけぞったさま。愛は

「心又（足をひきずる）土着付」で、心がせつなく詰まって、足もそろに進まないさまである。その意味は

① いとおしむ（いとほしむ） いとしむ。かわいくてせつなくなる。「恋愛」「可愛く愛すべし」

② めでる（めづ） 好きでたまらなく思う。また、よいと思つて、楽しむ。

③ おしむ（をしむ） いとおしむ（いとほしむ） おしくてせつない。もったいないと思う。

④ かわいがる気持ち いとしさ。また、キリスト教で、神が人々を救つてくれる恵みの心のこと。

辞書からキリスト教では神が人々を救つてくれる恵みの心となつてゐるが、全知全能なる神はいかなる人にも祝福を与えることができるだろう。しかし、人間はなかなかできることではない。右の頬を打たれたら、左の頬を出しなさい。キリストだから言えることである。私も貴方もこんなことはできない。

ならば、イエス・キリストの言う人ができる「愛」とは何だろう。そう考えながら、旧約聖書と新約聖書を再読した。そうすると、徳のある行為となる。言い換えれば、犠牲を伴う奉仕と言い換えられる。これが人がたどり着く最高の生き方なのであると私は考える。私が何処までこの境地に近づけるか分からないが精進する。

話を要する。

3月11日に東日本で起こった大規模な地震と大津波で多くの人が亡くなられました。心より、冥福をお祈りします。また、被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。テレビを見れば、被災地の様子が戦地のように、心が痛みます。被災された方々には何の言葉も掛けなくても無意味なものと感じます。ただ、この試験を乗り越え、明日に希望を持って諦めないで頑張ってください。

先月から弊社としても何かできないかと社員と相談し、社員が義援金を出そうということになり、社員から集めました義援金と全社分を合わせて、日本赤十字社の東日本大震災義援金として送らせて頂きました。

被災された方々の一日も早い復旧と復興を心より祈念します。

【2011年5月11日（水） 一日一話 「不況は発展の好機」】

不況時は、好況のときに生じた「ゆるみ」を引き締め、改革をはかる絶好の機会だと思いたい。実際、景気の悪いときには時間的な余裕ができるため、腰をすえて自己鍛錬や人材育成に取り組むことができる。不況は不況で大いに活かせるのである。

松下幸之助 「信念」より

1989年 日経平均株価は高値39000円となったがバブル崩壊となり、また長期の景気対策で多額の国債が浪費された。株価は上がることなく、今や日経平均株価は9800円となり、日本の借金はGDPの2倍以上の1200兆円（参考：チームニッポン 日本の借金時計表）となっている。あまりにも巨大な借金で返済計画もなく、毎年赤字国債を乱発している。多くの国民はこの意味を知らない。早く税制改革し増税しなければ、若い世代やその次の世代に大きなつげが回って行く。その頃には今の無責任な政治家たちは他界しているか老後生活で私には関係ないというであろう。こんな政治家を育成したのは我々国民であるからこの責任を免れない。しかし、これから生まれる子供達には何の責任もないことは事実である。そのことを多くの有権者は懺悔しなければならない。

『経世通信』で大前健一は「もつ日本の景気は良くなるまい。生き残りの道を探せ。」とか他のブログの引用ですが、彼は「もつ日本の

世間は良くならない。経営者は若い人間が多い国へ進出するか、遺産がある間にハッピーリタイアするべきだ」と言っています。私もこれに同感します。もう日本には坂本龍馬みたいな国の未来を憂い行動する人がいないから、残念であるがこの先世化の道をたどるしかない。国内が疲弊するのだからこの企業に所属していても同じ結果になる。

私は社員の未来が幸福であるように祈り、当社を繁栄させたい。社員はもっと真剣勝負で仕事をしてもらいたい。私は新しいビジネスモデルを作り、海外に事業を展開したいと思っている。先月、上海に行き、経営者達及び弁護士と意見交換してきました。私が上海で事業するならば、彼らは全面支援すると私に約束した。

【2011年5月12日（木） 一日一話 「きつと勝つ必ず勝つ」】

戦いに臨んで、大将がきつと勝てるんだという信念をもっていれば、それが部下に伝わり、士気も大いにあがってくる。また、そう考えてはじめて、勝つための工夫や知恵も湧いてくる。

事の成否の鍵は信念の有無にある。

松下幸之助 「信念」より

上杉謙信は義の武将として知られている。自分を毘沙門天の化身と信じていた。当時の武将達が夢見ていた天下統一の野望はなく、領地を守る戦いしかなかった。彼は生涯独身を通し、酒と孤独を愛した。また、愛読書は源氏物語で、和歌を嗜み恋愛の和歌で公家たちを驚かした知性を持つ戦国武将でもあった。

義の武将上杉謙信と天下統一の野望持つ武田信玄との川中島の戦いは有名である。川中島の戦いは1553年の第一次合戦から1564年の第五次合戦がある。最も有名なのが1561年の第四次合戦である。しかし、いつれの戦いでも優秀な決着はつかなかった。

兵力から考えると武田信玄側が優位であったと言える。第四次合戦では上杉軍13000人に対して武田軍20000人であった。上杉軍

の戦術はすべて上杉謙信が考えた。逆に武田信玄側が家臣に考えさせた。有事のときは大将が戦術を考えるほうが失敗したときの事を考えると正しい。

上杉謙信は諸将孔明と同じように観察眼が鋭かったのではないかとと思う。理由は長くなるので省略する。最も重要なのが戦の大義名分なのである。自分を毘沙門天の化身と思うほど、仏教に通じ、人間の正道を知っていた上杉謙信は兵士に毘沙門天の「罌」の軍旗を持たせ、戦わせた。兵士の力は普段より強いものになる。一方、天下統一の野望で戦う武田信玄の兵士には大将の欲望の為に戦い、また自分の褒美の為に戦うのである。大将の欲望で双方戦うならば同じ力になるが、この戦ではそうではない。

武田方の兵士は、武田信玄の野望の為に、義を重んじる上杉謙信の兵士を心を失くして殺せようか。私は武田信玄の兵士の心の奥に、良心の呵責があつたのではないかと考える。武田信玄側の兵士のためらいこそ、兵力の数ではまさる武田信玄軍が勝てなかった要因ではないかと私は新説を唱えたい。

私は儒教、仏教、ユダヤ教、キリスト教の教義に学び、正道に沿って生きようと努めている。私は人の為に生きる大義名分で言動している。私は経営の戦で逃げることはない。

【2011年5月13日（金） 一日一話 「人の言に右往左往せず」】

人の意見が気になってみずからの考えや行動に迷いが生じるには、人間の一面である。だが、ほめる人もあれば、けなす人もあるのが世間の常。だからこそ、事を行う場合には、「これが正しいのだ」というしつかりとした自分の考えをもつことが大切なのである。

松下幸之助 「信念」より

デートの約束の時間に来なく、電車が遅れたから、御免ねと言つても相手は気分を害するであらう。何回も同じことを繰り返すならば、連

絡も取れなくなる。正しい行いをしていないからである。不誠実な人になる。仕事で言えば、商談や打ち合わせの時間に遅刻するならば、商談は不成立になるだろう、打ち合わせは談笑な雰囲気になるだろう。

小学校から遅刻することが集団行動では厳禁と教えられていたにも関わらず、大学生になると正義に遅刻する者が増えてくる。その癖が直らないのか社会人になっても遅刻する人がいる。罪悪感はあるのだが、自己改革できない。その結果として信用できない不誠実な者と周囲から烙印を押されている。当の本人はそれに気づかない。そんな人が立派な事を言っても周りにはしらせるに達しない。集団生活している以上時間には重要である。一流な人は遅刻しない。言い方を変えれば、遅刻しないから一流になれるのである。

言葉を決したり、自分を擁護するために真実でないこと言う者がいる。最後まで嘘を通すことができるならば、それも真実になるだろうが、どこかで矛盾が生じる。その矛盾が命取りになる。嘘は人生を破壊させる。決して嘘をついてはならない。嫌われたらその関係の復旧は不可能であるからである。一流は嘘を言わない。言い換えれば、嘘を言わないから一流になれる。

正しい言動には普遍性がある。それを常識と言う。常識が分からない人は正直であること、素直であることに徹する。そうすれば、問題が起ころうとも、周りはその言動に注意を与えるだろう。その注意を素直に聞き入れれば、それが常識として身に付く。人間は動物のように一人では生きていけない。ならば、集団の中で相手に不愉快なことをしないこと、相手の立場に立つて考えること、トイレ掃除のように皆が嫌がる事を率先して行うことが正しいことなのである。

貴方の言動が身勝手ではないことを確認してください。貴方が笑顔であることを確認してください。貴方が周囲の人に感謝しているか確認してください。そうでなければ、素直に反省し、素直に自己改革をしてください。そして正しい生き方を当たり前にしてください。

どんなに身なりが立派でも、どんなに話し上手でも、誠意がなければ人の心はつかめない。「これだけ誠意を尽くしているのに」という気が起きるのは、その誠意がまた本物ではないからである。誠意は必ず通じる、その強い信念をもって事に処したい。

松下幸之助 「信念」より

私は、JR御徒町駅の北口近くにある安売り駄駄店で背広やワイシャツを賣う。百貨店では買わない。事務所の家具などは御徒町駅裏側の昭和通りに面した安売りの店で調達することが多い。決してブランドの背広は買わない。決して高価な事務用品は買わない。見栄を戒め、身分相応に質素に生きることに徹している。その点で言えば、私の身の周りには粗末な物しかない。しかし、人材育成の費用はケチらない。社会に役に立つ寄付などはケチらない。ブランドの背広や高級家具は虚栄心を満たすには役に立つが国家社会の繁栄には役に立たない。しかし、育った人材は国家社会に役に立ち、将来の子孫をも繁栄させる。

ずいぶん以前のことではつきりと記憶していないが日本昔話の中で、粗末な身なりの老人が道端で倒れている。欲の深そうな男は無視して通り過ぎた。粗末な服装だが優しそうな男はその老人にどうなされたか尋ね、その老人を自分の粗末な家に連れて行き介護した。その老人は元気になり、その男に礼を言い、旅路に消えた。後日、その老人の使者がその男の家を訪ね、おれにと沢山の小判を置いて去った。その老人はたいそう身分の高い人であった。

私は身なりや名刺の屑屑に関わらず、同じ言葉で話す。私は私の真実を伝える。見栄をはることは決してない。数年前、ある会社の会長と雑談していると古賀さんはこれまでずいぶんいろんな人と会っているでしようがそんな人の話は微塵もしない。不忠實な人ですね。私が会った多くのベンチャー企業の社長は今まで会った有名な名前の名前を羅列して自分を大きく見せようとするのに。私は人の名前を覚えるのが得意でないから言えないだけですと切り返した。

私は経営理念に従って信念を持って経営している。経営者は今までの足跡だけが真実であり、それ以外に何も無い。だから、自分に誠実で相手には誠意を持って対応してる。それを判断するのは自分ではなく、相手が判断するのだから言い訳はしない。ただ、天運があるか否か、

それは天が決めることと思ひ、自分の使命を貫いている。

【2011年5月17日（火） 一日一話 「商品に確信があればこそその宣伝」】

「よい商品ができた。一人でも多くの人にしてもらいたい。いつかついていたければ、必ず喜んでもらえるはずだ」という確信があれば、好況不況にかかわらず、思い切った宣伝ができる。宣伝広告とは、その会社の確信と信念に支えられて力を発揮するのである。

松下幸之助 「信念」より

会社を設立した後、国や自治体が支援する金融政策の中で、独立開業許可があつた。内容は事業開始、会社設立から2年を経過しておらず、以下のいずれかに該当する方

- (1) 法律に基づく資格を活かし開業する方
- (2) 一年以上勤務した経験のある業種（職種）で開業する方
- (3) フランチャイズ契約を締結して開業する方
- (4) 開業後6か月を経過した方
- (5) 特許法等に基づく設定登録を受けた技術等をもって事業を開始する方
- (6) 事業承継し開業する方

私は(2)に該当すると思ひ、資料を沢山作つて、商工会に申し込んで信用金庫に持つて行つた。後日連絡があり、融資はできないと告いであつた。医者とか弁護士だったら、高い確率で融資してくれるようだが、一般の多くの場合、創業時に融資は受けられない。会社を興してから、非常に簡単なことで置く。私はそれから2年間、一円も銀行から融資は受けなかつた、受けられなかつた。創業から3年目でやっと銀行が話を聞いてくれた。それから、私は銀行に頭を下げ、融資を受けるのではだめだと硬く誓つた。それから一度も銀行に頭を下げる必要は

なかった。これからは銀行に頭を下げない経営をする。もし方が一、銀行に頭を下げる事態が予想されるなら、その前に私は会社を売却する。それだけの覚悟がでなければ、会社を経営できない。だから、私は黒字決算に拘る。前年度（2011年3月期）も黒字決算が確定した。創業以来、11年連続で黒字決算を達成できた。

赤字決算で何が社会貢献だと信念のない経営者に「愚」を入れたい。うまくいっていない会社の社長ほど高級車に乗り、ブランド品を身に付けていると、ここの税理士に聞いたことがある。

当社はソフトウェア開発会社であるから人材が商品である。当社社員は技術と人格ともに成長はしているが、まだ発展途上にある。同じ業界や世間様から立派な社員が沢山いて、社長は幸せですねと言われる目を長く待っている。

【2011年5月18日（水） 一日一話 「商いは公のもの」】

自分の行う仕事、事業は、自分のものであると同時に、公のものである。だから、自分の儲けだけを考えてはいけなく、情に流されて人に甘くなってもいけない。常に公的な観点に立った広い視野で臨みたい。

松下幸之助 「信念」より

難字の問題になりそうな質問であるが、「会社は誰のもの？」

- (1) 株主の物
- (2) 会社役員のもの
- (3) 従業員の物
- (4) 社会の物

さて、どれでしょう？

少し考えてください。

正解は一つではない。欧米では(1)の株主の物が一般的である。日本では(4)社会の物・社会共有の財産と考えるのが妥当と言える。松下幸之助は「会社は公器」と言っている。また、NTTの社員は新人研修で「会社は社会共有の財産」と教えられると聞いた記憶がある。私も「会社は公器」との答えを支持する。

米国のリーマンブラザーズ破綻はまさに会社は株主のものであるから、儲かれば何をやってもいい姿勢というから始まった。しかし、その方式は最後に株主は大きな損失をもたらして終わる。リーマンショックの後でもハーバードビジネススクールでは会社は株主の物と学生に教えているようだ。株主には相当のリスクあるのだから米国の考え方を完全否定できないが、行き過ぎではないかと思ふ。強欲ありき経営は社会から見放され、長期に考えれば衰退し、シャボン玉のように弾けてなくなる。

日本で最も長く経営している金剛組の創業は西暦578年で聖徳太子の命を受け、四天王寺に携わって以来、1433年間も存続しています。この記録は日本一、世界一です。ウェブサイトの理念のページには

「その永い歴史の中で常に心に刻んできたものは、先賢者たる目覚に基ついた伝統の技術を、後世に伝えるという使命感です。圧倒的な荘厳感、極楽浄土の具現化、神仏の前での万人の純粹さ、それらを目指して先達は技の鍛錬と心の修養に勤めてまいりました。常にお客さんから求められる存在でありたい、金剛組に頼んでよかったと感じて頂きたい、そのような気持ちで社寺建築一筋に1400年余続いた原動力となっています。私達はこれからも伝統を重んじつつ、あたらしい技術を常に追求するリーディングカンパニーでありたいと願っています。」

とあり、明らかに会社は公器との意識をもっていることが分かります。会社が公器ならば、社員も私利私欲で生きてはならない。人の為に尽くさなければなりません。そんな会社や社員は社会から大きな祝福を受ける。

【2011年5月19日（木） 一日一話】『生き方次第で天命が変わる』

「人事を尽くして天命を待つ」というが、人事の尽くし方いかんで、あとの天命の輝きが決まる。人生には自分の意思ではどうにもならないこともある。だが、それを知ったうえで、精いっぱい的人事を尽くすのだという信念をもって、なすべきことをなしていきたい。

松下幸之助 『信念より』

世界的な物理学者スティーブン・ホキング博士は、『宇宙誕生に神が必要ないことは物理学の法則に示されている。また、天国や死後の世界は実在せず、『おとぎ話』にすぎない。これをM理論が証明してくれるだろう』と話している。

これまでの人類の文明は宗教や哲学ではなく、物理の法則で進歩発展してきた。その恩恵で人類は生まれる苦しみ、病気の苦しみ、老いの苦しみ、死の苦しみや自然災害などの苦しみから随分解放されるようになった。それはなぜの探求結果でもある。そして、人間はなぜ存在しているのかの大命題でも物理の法則は解決することになるだろう。

神が人間を創造したのではなく、シュメール人が神々を創造した。冥界もシュメール人が創造した。現在文明はシュメール人の創造した文明を超えることはできない。なぜなら、それを基盤としてその上に存在するからである。宗教や神は人間の傲慢を戒めるためには必要であるが、宗教や神が宇宙の進化や生物の進化を否定する必要はない。

私は神の存在を信じていない。天国・地獄の存在も信じていない。生まれ変わると言う来世思想も信じていない。

自分の遺伝子は継承できるが、生きている自分自身は継承できない。だから、自分自身が燃焼できることを早く発見し、命ある限りにそれに向かって行くことである。そのことを発見した人達は天命と感ずるのであろう。私は今の仕事を天命と感ずり、命ある限り、この仕事を通じて社会に奉仕していきたい。

【2011年5月20日（金） 一日一話 「まだ若いまだまだできる」】

青春とは心の若さである。

何歳になろうと心の若さはもち続けることができる。

自分は若く、大きな可能性がある。

西へ行こうが東へ行こうが思うがまま。

そう考えれば、希望が生まれる。まだまだできる、やってやろうという強い意欲が湧いてくる。

松下幸之助 「信念」より

若い人と老いた人は何が違うのでしょうか？まず、老若の漢字の語源を調べてみよう。

「若い」の漢字は女性が髪の手をとかしている姿を表している。

「老い」の漢字は腰が曲がり、ひげを伸ばして杖をついている状態のことをあらわしている。

中国の古代人は老若をこのように考えていた。

もっひとつの漢字も調べてみよう。

氣は氣の略字である。

「氣」の上の「气」という部分は天体をかたどっており、下もまた米ではなく、八方に開いている姿をかたどったもので、天体の下で、生命がエネルギーを四方八方に放出していく状態を表わしたものである。

宇宙のビックバンはエネルギーの爆発であり、太陽は水素が核融合して光子を放出して明るく輝く。人間の「氣」もエネルギーである。そうすると、生きる上で大変重要な物は「氣」を育て上げることなのだ。あの人は元気だ、あの人には氣迫を感じる、あの人は勇氣がある、あの人は氣持がいい。

氣力の大きさはその人が持つ夢とか目標に比例すると考える。夢とか目標を実現しようとする過程でエネルギーが体内に満たされ老化を食い

止め、そして元気で若々しく見える。

青春の中には夢、希望、勇気、冒険が含まれている。老化の中には失望、懐疑、嫉妬が含まれている。

貴方が何時までも若々しく生きることが望むならば、大きな夢を持ち、その夢を實現しようと生き続けることである。その時にその人から元氣というオーラが放出されている。

【2011年5月23日（月） 一日一話 「共存共栄こそ真の繁栄」】

競争は大事。互いに負けまいと創意工夫を重ねるところに発展がある。

だが、勝ちさえすれば手段は問わないという行き過ぎた競争は、いずれ必ず弊害を生み、共倒れになる。正しい競争による共存共栄こそ真の繁栄といえよう。

松下幸之助 「信念」より

囲碁将棋は盤面にある駒の配置や石の並びでその状態から多様な変化する。自分が優位になることを予測する知恵比べの競技である。これは知力だけの勝負で真の競争があり、精進すれば相互に繁栄する。プロスポーツ競技も練習により心身を鍛錬すれば、繁栄する。目先の利益で八百長相撲が蔓延すると相撲自体が衰退し、相撲に関係するすべての人達が収入を立たれることになる。ポーカーや麻雀などは運任せで勝敗を競うゲームであるから、人間力を高める競技にはならないので趣味程度に抑えるべきである。

私のように事業をしていると、絶対に儲けなければならない。赤字が続くと倒産するからである。赤字が続くと恐怖が訪れる。そんな時に手段を選ばなくなる。営業マンはできないこともできると嘘までつくようになる。それが信用信頼までも失くしてしまい、そんな状態になると何をやっても手遅れとなる。

商いをしたいならば、商いの前に会社の目指す方向とか営業する目的や営業する者の人間性をアピールすることにある。会社も自分も正直

であり、決して自分勝手なことはしないことを強調するべきである。相手に長く付き合いたいと思われる人間力を持たなければならない。

正しい商いをしながら丁寧な仕事をしていると前触れもなく新しい取引が突然に起こることがある。世の中には目に見えない繋がりがあったり、自分の知らない所でいろんな評判が立ったりしている。良い考え方や良い行為には天が味方する。

私は自分に正直でありたい。だから自分や会社の状況を克明にホームページに公開している。当社は未上場であるが決算書は創業から公開している。当社以外で未上場の会社が決算書を公開しているのを見たことがない。見られると良くなる。さらけ出すと努力する。経営の本質は徹底した情報公開にある。そこには共存共栄したい気持ちがあり、互いの真の繁栄を願う気持ちでもある。

企業の情報公開は女性のミニスカートをはく気持ちに置き換えて考えれば良い。スタイルに自信のある女性はミニスカートをまとい、多くの人の視線を浴びる。見られると緊張したり、意識したりする。そうするとつときれいになりたいと努力する。これは好循環を生み、ミニスカートはその女性を美しくする。逆にロングスカートで肢体を隠す女性はほとんど美しさから遠ざかる。隠せば隠すほど肢体に贅肉が付いて醜いスタイルになっていく。情報を公開しない会社はロングスカートで贅肉を隠すような行為に似ている。もし経営者が自分の会社を良くしたいならば、勇気を持ってミニスカートをはく女性になればよい。

未上場企業の財務公開は赤字会社を減らす最善の策であると私は考える。また、企業の健全化は社会の健全化の最善の策であると思う。確かに広報に掲載できるが広報への掲載は時代遅れの無用の長物で有名無実になっている。未上場企業の財務内容をインターネット上に存在する自社のホームページに公開することに対して国税庁は未上場企業の法人税の税率を下げるなど知恵があっても良いのではないのか？

会社は公器である。企業の徹底した情報公開は正しい競争を起し、全体の繁栄をもたらすと確信する。

【2011年5月24日（火） 一日一話 「信念は人を動かす」】

自分の思ふとおりに人に動いてもらうためには、相手を説得するだけの情熱をもっていることが必要。
もちろんそれは、尋常一様の情熱ではないけない。

自分のやっていることに間違いないという強い自信、信念から生まれてくるのもでなければならない。

松下幸之助 「信念」より

松下幸之助の「信念」を31回に渡り、引用させて頂きました。今日が松下幸之助の信念の最後となります。私は以前より松下幸之助の「信念」を繰り返し読んでいました。その御蔭で鋼のように強い信念が身に付きました。この31回を読んだ人は人間としての成長があったことを確信します。

信念は正しくなければならぬ。オーム真理教などの邪教信者はその教義を信じていることだけを考えると正しいかもしれないが、身勝手である。なぜなら、彼らの言動は正道にあらず、仁なき「信」で現実の逃避に過ぎない。正しいことを仏教では八正道という。儒教では徳・仁・義・礼・智・信・孝・悌・忠の実践にある。このような仏教や儒教などの正しい考えに立脚して、自分の生き方を貫くことを信念と私は考える。それは物理の法則と同じように普遍的でなければならない。

私の経営の信念は私利私欲を捨て、人を正しく育てることにより、各自の将来への不安と恐怖を取り除き、仕事を通じて技術と人間力を磨き、人格者を群生させ、国家社会に奉仕できるようにすることである。

【2011年5月26日（木） 一日一話 「出会いは人生を変える」】

人は才能だけではその才能を活かすことはできない。人は人との出会いで人生が良くも悪くも変わる。三菱の創始者である岩崎弥太郎の例

で出会いの大切さを理解してもらいたい。

岩崎弥太郎は1835年1月9日、土佐国地下浪人岩崎弥次郎の長男として生まれた。武士としては身分が低かった。弥太郎は立身出世を夢見て、幼少から猛烈強していた。14歳の頃、藩主・山内豊熙にも漢詩を披露し才を認められる。慶応3年（1867年）、後藤象二郎に藩の商務組織・土佐商會主任・長崎留守居役に抜擢され、藩の貿易に従事する。慶応3年（1867年）2月坂本龍馬が脱藩の罪を許されて、亀山社中が海援隊として土佐藩の外郭機関となると、弥太郎は渡命を受けた隊の経理を担当した。慶応3年4月頃に記録上確認出来る弥太郎と龍馬の初めての出会いがある。特に龍馬が作った海援隊約規は弥太郎の商いの考え方の基底になった。慶応3年6月、龍馬が長崎を離れる時に多額の餞別を贈り、涙を流している。これが最後になるとは誰も知らない。

慶応3年11月15日、近江屋新助宅母屋の二階にいた龍馬は暗殺された。翌年は年号が明治元年となり、土佐商會は閉鎖され、その後弥太郎は海運業を営み、海援隊を引き取り、三番商會から日本郵船となり、その後二番財閥と言われる大きな企業に発展していった。歴史に「もし」はないが、弥太郎が龍馬に出逢わなかったら、三番は存在しないだろう。

私はこれまで多くの良い人に出会い、その人達から色々と助けてもらい、生きることが満たされている。有難いと感謝している。人生はすべての人に平等に人生を変える出会いがある。その機会をその瞬間にはだれも気付かない。しかし、後で大変重要な出会いであったことに気付く。良い出会いに遭遇する人は素直に精進している人ではないだろうか？もし、貴方がそうでなければ、反省し、日々の生き方を變えて欲しいものである。

【2011年5月27日（金） 一日一話 「心穏やかにして志がなる」】

何時頃のことか忘れたがアマゾンズの奥地の原住民の暮らしを取材する学者がその村の酋長に幸福（happiness）を尋ねたことが印象に残っている。その酋長は私たちには貴方がた、采国人の考える幸福はない。幸福とは争いがなく、男たちはジャングルに狩りに行き、女たちは川で炊事して、その周りで子供たちががやがやと遊んでいる。こんなことが我々の幸福である。この言葉がとても印象に残っている。

平成12年3月21日に会社を設立したが、その時、長男6歳、長女2歳であった。その頃の普通預金の残高は50万円しかなかった。こ

れから始まる戦いとしては軍資金は乏しかった。しかし、2番目が生まれてからは心が穏やかであった。子供が一人の頃は家庭内は静かで子供が笑っているのかな、元氣なのかなと気を配っていた。しかし、2番目が生まれてからは、家庭内がさわさわと騒がしく、アマソンの酋長の言葉を思い出した。こんなことが幸福なのかと穏やかな気持ちだった。この穏やかな気持ちで起業という新しいことをやるにはもつとも雑念なく集中し、短期間にいろんなことができた。私の志に情熱を傾けることができた。振り返ってみると創業したころが一番心が穏やかだったようだ。そう考えるとアマソンの原住民の幸福と同じ状況が私の創業を軌道に乗せられた最も重要なことであったと考えられる。家族田舎で心穏やかなるとき、どんな志も成就する。これから新たな志が始まっている。社内がザワザワがやがやなる状況であれば、新しい志も成就することになる。

【2011年5月30日 月 一日一話 「I give you my word.」】

震災以降、思いは見えないけれども思いやりは見える。テレビCMが繰り返し流れていたが、このCMはちつとも飽きなかった。どうしてだろう。やはりこの言葉は人の心を打つからであらう。ちよつと、慥道にそれるが、ついでにこの詩の全文を紹介しよう。

行為の意味

富澤章二

あなたの「こころ」はどんな形ですか
とひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも「こころ」は見えない
けれど ほんとうに見えないのであろうか

確かに「こころ」はだれにも見えないけれど「こころづかい」は見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の「思い」は見えないけれど「思いやり」はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為なのだから

あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為になるとき
「心」も「思い」も初めて美しく生きる
それは 人が人として生きることだ

含蓄のある大変素晴らしい詩である。ここからが本題である。私は約束に対して私の人生の中で、ただ一回しか反故したことはない。残りの約束はすべて行為として実行してきた。約束に対する反故は己に対する契約違反である。それは断じて許されることではない。人格は約束を実行した結果と比例するものである。約束を100%実行した人は高い人格を持ち、上人なり、約束の実行率が低い人は人格に欠陥があり、下人となる。

口から出た言葉は消えると思うが相手の心には記憶されている。日本人は言葉による約束を酒の席からと誤魔化す傾向にある。それは大間違である。国際社会では絶対に通用しない。英語で約束するを「I promise you」というが英国では「I give you my word」という言い方を使う。この「約束」が心にしてみる。だから、口から出た約束も文書の約束も同じである。

貴方は自分の言葉を大切にしなければ、貴方は相手から大切にされない。約束の反故は人を去らしめ、ついには貴方は孤独となる。
「I give you my word」を心に持ち、約束を必ず守らなければならない。

旧約聖書の天地創造の中で、エバは蛇に騙され、エバとアダムは善悪を知る禁断の知恵の実を食べた。その行為に対して神は怒り、彼らに罰を与えた。ユダヤ古代誌ではその罰を次のように解説している。

大地はもはやそれ自体で自生のもは何一つ人間の為には生産してくれず、ただ人間の汗と労苦が与えられるときにだけ、その代償として若干のものを生み出してくれるが、それ以外のものは生産してくれないだろう。と。また、神は出産とそれに伴う苦痛を罰としてエバに科せられた。蛇が彼女を欺いたとはいえ、彼女はアダムを騙して彼に災厄をもたらしたからである。

人間は額に汗しても僅かな食糧しか得られない。一生勤勉しなければ、生きては生きない。それが神との約束を守らなかった人間の定めである。それが今の日本ではどうか？ 少ない社会保険料の納付にも関わらず、年金の額が少なく生きていけないと老人は文句をいう。辛抱しなく仕事を辞めて、失業保険を頼り、仕事とすべてを失くして生活保護に頼り生きている。政治や官僚は財源がないのに神の如く福祉を弄弄させ、国家を滅ぼそうとしている。勤勉勤労が馬鹿みたいに思える。神はその事を知っている。快楽を求め墮落したすべての人間を大洪水で滅ぼす。ただ徳のあるノア一族だけを箱舟で救済する。

このまま行くと、日本は大不況の大洪水に見舞われ、多くの国民が貧困に喘ぐであろうことを強く認識しなければならない。勤勉勤労する徳のある人だけが救済されることになるだろう。

未だ、遅くない。貴方が神と次のことを契約すれば、神は貴方を助けてくれる。額に汗して、人の為に働き、そして子供達に教えなさい。貴方より弱い人達を助けるために必死で学問しなさい。そしてその学問で得た知識と知恵を活かし、それらの人びとを救うために働き生きなさい。そうすれば、神は貴方と貴方の家族を幸福の箱舟に乗せることを許す。

三章

貴方には何が見えていますか

「2011年6月1日（水） 一日一話 「貴方には何が見えていますか」

副題 学問は繁榮の近道 犠牲は幸福の近道

貴方の目には何が見えていますか。貴方の耳には何が聞こえていますか。もし貴方の目が視力を失い、漆黒の闇しか見えなかったら、貴方はどのように生きればよいか考えた事がありますか。もし、貴方の耳が何も聞こえなくなり、静寂しか聞こえなかったら、貴方はどのように生きればよいか考えたことはありませんか。貴方の喉が振動しなくなり、貴方が言葉を失ったとき、貴方はどのように生きればよいか考えた事がありますか。貴方の目には何も見えていないのに貴方は幻を見ているだけと気が付くでしょう。貴方の耳は何も聞こえないのに貴方に聞こえている幻聴に過ぎないと気が付くでしょう。貴方の口から放たれる言葉は雑音に過ぎないことに貴方は気が付くでしょう。

貴方が視力や聴力を失くした時、貴方はその現実を嘆き、自分の不幸に苦しみだけです。貴方はそのことを今まで気が付いていなかったでしょう。貴方の目は真実を見ていなかった。貴方の耳は嘘を聞いていなかった。貴方の口は真実の言葉を伝えていなかった。だから、五体満足を失うだけで、不幸になった自分の運命を呪うだけしかできないのです。

貴方の子供が視力を失くしたら、貴方は何をしますか。貴方の子供が聴力が失くしたら、貴方は何をしますか。途方に暮れるでしょう。そして、ただ貴方は子供の為にと障害者手帳の申請を行っただけしかできないのです。それでは貴方も貴方の子供も絶対に幸福になることはないのです。

医者から見れば私は障害者です。しかし、両親も私自身も障害者手帳を二度も申請したことはありません。しかし、私は自立して生きています。私は幸福です。不幸な境遇と思つたときは努力していない自分がそこにありました。

現在の貴方は視力のない、聴力のない人間に等しいことを理解してください。そして、貴方が正しく見るために、貴方が正しく聞くために、貴方が正しく考えるためには真の教育が必要であることを理解してください。

人類史上最も不幸な境遇から愛情と想像を絶する努力により真理を掴んだ人がいます。その人の名前はヘレン・ケラーです。当社は人を育てる会社と公言しています。だから教育とは何か、人材育成とは何であるかを考えなければなりません。そして貴方の目に真理が見えるように、貴方の耳に誠の声が聞こえるように、貴方の口が真実を伝えることができるように考える必要があります。さらにこの社会のあるべき姿

が何であるか考える必要もあります。

【2011年6月3日（金） 一日一話 「貴方には何が見えていますか（2）」】

大阪維新の会（維新）府議団が提案した府内の公立学校の教職員に国歌斉唱時の起立を義務付ける全国初の条例案が2日、大阪府議会の教育福祉委員会で可決されたと言ふニュースは驚きに値する。国家国民に対して敬意と感謝の念のない教職員が子供を教育することは断じてあってはならない。当たり前のことを理解できない人が教育者にもいる。情けないことである。キリスト教信者がイエス・キリストを侮辱する行為に似ている。こんな事を条例にすること自体が哀しいことである。本当のことが見えていないのである。

貴方が幸福であるとき、貴方は必ず健康診断に行くだろう。そして、医学と科学技術によつて開発された医療器具により、貴方の身体の状態を知ることができる。また、悪い部分があれば、再検査して、不健康な部分を治療できることになる。これは貴方の未来を知ることと同じである。貴方は街角に座っていると古い師に貴方の健康診断を委ねることはないだろう。貴方は医師免許を持つ人に貴方の健康を委ねるであろう。

サイエンスは科学と翻訳される。科学とは体系化された知識や経験の総称、自然科学、人文科学、社会科学の総称である。しかし、現在の英語やフランス語等の science という語は、ラテン語 scientia に由来したもので、scientia スキエンティアは単に「知識」という意味でしかなかった。science の目的は「知ること」である。

私たちは小学校、中学校、高等学校、大学までに多くの事を学んできた。しかし、それが実社会でどれだけ役に立っているのであらうか。福沢諭吉先生は学問のススメの中で、日常に必要な事（実学）を学ぶのが好ましいと言っている。それは生きる上で最も重要であると。

江戸時代には士農工商という身分制度があった。商人の子供は商売を、物づくりの子供は物づくりを、農民の子供は農業を、武士の子供は幕府や藩の仕事をすると決まっていた。だから、子供の頃から実業を学べた。しかし、現在社会では小学校から大学までほとんどの人に同じ教育を施している。昔の人は身分に違いはあるにしても、自分のなる職業はほとんど決まっていた。今は職業を選択するのは本人の自由であるが何をしたらよいかわからない若者が多い。身分制度を抜きにして職業だけを考えて昔の方が幸せだったと思われる。

無知なる者は人を犠牲にして幸福になる。

智のある者は人を救うために苦悩する。

自立なき自由は不幸である。

自立した自由は幸福である。

自立するために学問をしなさいと植村謙吉先生は言っている。自立心、独立心がなければ、新しいことは始まらない。新しいことを始めるためには学問が必要になる。私の夢は幸せな家庭を作ることであるという全く夢のないことを言う人がいる。新しいことを始めなければ、原始社会は原始社会のままである。妙ではないか？現在は1万年前の石器時代とは全く違う。長い歴史の中であらゆる学問が発展してきた。そして我々は1万年前の石器時代の人類よりは幸福に暮らしている。その恩恵を受けながら自分は努力したくない、学問して新しいことに取り組み人を幸福にしたいとは思わない。まったくもって身勝手である。現在社会の大きな問題は自愛心、郷土愛、愛社精神、愛国心の欠乏である。そして各々が孤独になっている。孤独こそが人間にとって最大の不幸であることも知らないで。

〔2011年6月7日（火） 一日一語 貴方には何が見えていますか（4）〕

自由と平等について考えてみよう。

まず自由とは何か。

貴方は何処にでも住める自由がある。

貴方はいかなる宗教も信じる自由がある。

貴方は誰とでも恋愛できる自由がある。

貴方はいかなる職業にも就ける自由がある。

貴方は言論ができる自由がある。

貴方が貧乏であるのも自由である。

貴方が豊かになるのも自由である。

貴方が賢くなるのも自由である。

貴方が愚かであるのも自由である。

貴方が上人になるのも自由である。

貴方が下人であるのも自由である。

貴方が好かれるのも自由である。

貴方が嫌われるのも自由である。

しかし、他人のいかなる自由も束縛してはいけない、干渉してはならない。

これが自由の基本的考え方である。

平等とは人間の基本的権利であり、生命、財産、名誉の尊重を言ふ。貴方にも基本的人権があり、すべての人にも基本的人権があるから貴方は他人の基本的人権を犯してはならない。

貴方は自由と平等を理解したと思つ。

ならば、次のことが真理であると言えよう。

貴方が貧乏であるのは貴方の自由なのである。

貴方が愚かであるのも貴方の自由なのである。

貴方が品格のないのも貴方の自由なのである。

だから、社会的地位が高い人や富を持つている人も自由なのであるから、それに対してそれを持たない人は恨んだり、嫉妬したりすることはできない。それはただ学問した結果の差であるからである。

私はこれまでIT業界未経験の人生の道に迷い込んだ社会人経験のある若者を採用してきた。私は採用した社員に人材育成の重要性を説き、IT技術という実学を身に付けさせ、その技術で終生生きることに困らないようにと創業以来教育している。当社の社員の中にはIT技術だけではなく、その発展として、他の分野を学問している者も現れている。

私は若い社員を板生清理事長（東京大学名誉教授）が主宰する特定非営利活動法人 ウェアラブル環境情報ネット推進機構の本郷の東京大学山上会館で開催される定例会や懇親会に参加させている。定例会では最先端の研究を聞くことができ、懇親会では一流の人とビールを飲みながら懇親できる。こんな機会は一般社会人にはめつたにないので、若い社員は大変刺激されている。

若い頃、学問していない人は晩年に本当に苦労することを正しく認識して、今からでも遅くはない、きちんと実学を習得するように努力しなければならぬ。

【2011年6月8日（水） 一日一話】「貴方には何が見えていますか（5）」

『新しさ』の必要性について考えてみよう。

人間は常に新しい時代を、新しい価値観を、新しい技術を、新しい思想を求めてきた。それは温故知新を繰り返した歴史である。この事を

理解しやすい例で説明しよう。洋服の移り変わりは速い。洋服はファッションナブルでないと、大衆に飽きられる。ファッションデザイナーは常に斬新なアイデアや芸術性を求め、新素材を駆使し服飾を大衆に提案する。兎に角、春夏秋冬に合わせてファッションショーが世界中で開催されている。特に女性には新しいファッションを求め、服飾を買い求める。女性たちの要求を満たさないファッションブランドは姿を消してゆく。ファッション業界は常に新しさを求めて減りを削っている。

我々のIT業界も日進月歩の技術革新で新しいアーキテクチャー、新しい言語、新しい製品が続々登場する。ITベンダーはユーザに新しい技術でシステム提案しなければ生き残れない。同様にIT技術者は常に新しい技術を勉強しないと時代から取り残され、いつの間にかIT業界から姿を消していく。他の業界も常に新しい技術や新しい価値観を駆使して新しい製品を開発している。

人間は時間を止めないで新しさを求めてきた。だから、現状に満足しないで新しいことに挑戦することが必要なのである。すべての分野に共通して言えることであるが技術者は技術の土台となる知識と技術を身にまとい、新しい技術の取得を急むようにする必要がある。

【2011年6月9日（木） 一日一話 「貴方には何が見えていますか（6）」】

「公社」について考えてみよう。

企業とは営利を目的として一定の計画に従って経済活動を行う経済主体である。企業は公企業と私企業がある。話が広がらないように私企業の中の一般的な株式会社についてだけ話すことにする。

株式会社とは、細分化された社員権（株式）を有する株主から有限责任の下に資金を調達して株主から委任を受けた経営者が事業を行い、利益を株主に配当する、法人格を有する企業形態である。法人とは、自然人以外で、法律によって「人」とされているものをいう。よって会社にも自由と平等が保障されている。また、納税の義務を負う。会社を設立する場合、法務局に株式会社であることを届けなければならぬ。法人登記が完了すると登記事項証明書が貰える。これはその法人が存在することを証明するものとして使用される。

株式会社の特質は、（1）法人格（2）出資者（株主）の有限责任（3）持分の自由譲渡性（4）取締役会への経営権の委任（所有と経

営の分離、(5) 出資者（株主）による所有の5点にある。

株式会社である以上、利益を株主に配当するために利益を追求しなければならない。しかし「これが問題なのである。利益を追求するあまり法律を犯す経営陣もいる。利益を追求するあまり倫理を捨てる経営陣もいる。これは目先の利益を確保できるが長くは続かない。天の道、人の道に外れた経営は淘汰されるからである。冒頭にある企業の変遷の中の「営利を目的として」を「営利と奉仕を目的として」に変質することが望ましいと考える。

私は11年前に株式会社を設立した。会社を興し、会社を成長させながら継続することの難しさを痛感している。会社を10年も続けると自立した、独立したと言える。事業しながら、利益を上げながら、雇用を維持しながら、そして夢を持ちながら会社を継続するには多くの人の支援がなければ、それを維持できない。それは法律、人物、情報など万物の恩恵に与らなければならない。それは万物への敬意と感謝に繋がる。孫悟空は傲慢になり、何でも自分ができると思っていた。しかし、彼は釈迦の掌の中にいた。経営者も孫悟空なのである。多くの社会人は会社などの組織に所属して仕事を頂き、給金を頂き、人間としての尊厳を持って生きている。サラリーマンも孫悟空と同じである。釈迦の掌にあることを深く感謝しなければならない。

ちよつと、長くなったのでこの続きは明日にする。

【2011年6月10日（金） 一日一話 「貴方には何が見えていますか（7）」】

「会社」について考えてみよう。（つづき）

私のところに帝国データバンクから毎日帝国ニュースの日刊冊子が送られてくる。主要記事は倒産情報である。毎日毎日倒産している。この3年間の倒産を調べると次の通りである。

2008年度(2008年4月1日～2009年3月31日)の1年間に負債額1,000万円以上の倒産は倒産件数1万3334件、負債総額13兆6709億2700万円であった。

2009年度(2009年4月1日～2010年3月31日)の1年間に負債額1,000万円以上の倒産は倒産件数1万2866件、負債総額7兆214

億6100万円であった。

2010年度(2010年4月1日～2011年3月31日)の1年間に負債額1,000万円以上の倒産は倒産件数1万1498件、負債総額4兆5673億7800万円であった。

このように毎年1万社以上が倒産している。また解散・廃業している会社が毎年1万5千社ほどある。倒産と解散・廃業を合わせると2万5千社以上が1年間で無くなっている。

驚くべき事実である。一方会社設立はどうか調べたが統計情報がないため、実態が掴めない。

そこで、2010年版中小企業白書を調べた。それによると倒産率・廃業率の推移という表があり、それによると

会社企業

91年～96年	15553千社
96年～99年	16655千社
99年～01年	16588千社
01年～04年	1607千社
04年～06年	1519千社

このように2000年以降、会社数は減少し続けている。06年以降の統計がないので何とも言えないが、リーマンショックの影響を考えると継続して減少しているのではない。

次に労働人口を統計局ホームページ／労働力調査 長期時系列データ 従業上の地位別就業者数(全国)で調べた。

ここで使用する常用雇用者とは企業(法人)で、雇用契約の形式の如何を問わず、期間の定めなく雇用されている労働者、過去1年を超えて期間について引き続き雇用されている労働者、採用時から1年を超えて引き続き雇用されると見込まれる労働者のことをいう。具体的には、正社員の労働者、期間社員の労働者、パートタイムの労働者、役員を兼任している労働者、外務員である労働者、出向の労働者、海外勤務の労働者、外国人の労働者、休職中の労働者で、上記要件を満たすものがこれに該当する。

ここで使用する臨時雇用者は非正規雇用と言い、一般的に、有期契約労働者(期間の定めのある雇用の労働者)、派遣労働者(派遣法に基づく派遣により派遣先で就労する労働者)、パートタイム労働者(1週間の所定労働時間が通常の労働者の1週間の所定労働時間に比べて短

い労働者などのうち、1つ以上に該当する労働者の雇用形態の総称である。

自営事業主と家族従業員数は1980年を境に減少している。平成22年は昭和30年代の半分強まで少なくなっている。

男性の常用雇用者数は平成9年(3070万人)をピークに減少している。平成22年には2865万人となっている。

男性の臨時雇用者数は昭和51年(58万人)から増加している。平成22年には222万人となっている。

女性の常用雇用者数は昭和42年(859万人)から毎年増加している。平成22年には1840万人となっている。

女性の臨時雇用者数は昭和42年(94万人)から毎年増加している。平成22年には430万人となっている。

これから見ると自営業が減少し、男性の常用雇用者数は平成9年から減少し、男性の臨時雇用者数は昭和51年から増加している。

一方女性の社会進出が顕著で女性の常用雇用者数・女性の臨時雇用者数とも継続して増加している。

総労働人口は平成9年の6557万人から徐々に減少して、平成22年には6256万人になっている。この13年間で約300万人の労働人口が減少している。

個人事業主では事業でできなくなり、男性の社会的地位が低くなり、女性の社会的地位が高くなっていることが分かる。草食系男子、肉食系女子の表現が現実味を帯びてくる。今後も男性の受難な時代は続くようだ。当社の若い社員に聞いたことが合コンで女性は男性が正社員であることが交際する最も重要な条件であると言っていた。常用雇用者には正社員、期間社員、パートタイムを含み、正社員の割合が定かではないが、常用雇用者の中で若者の正社員の割合が少ないのが実態があるのであろう。

【2011年6月13日(月) 一日一話】『貴方には何が見えていますか(8)』

「国家」について考えてみよう。

貴方は国家について考えたことがありますか？貴方は日本国に生まれた瞬間に貴方は日本国憲法と日本国法律と契約したことを知っていますか？

私は成人式で20歳になる人に日本国の法律を厳守することの誓約書を書かせたら良いのではないかと政治家の秘書や弁護士に提言した

ことがあります。しかし、これは表現しません。なぜかという点と出生したときに暗黙の契約がなされているからでしょう。しかし、酒を飲んで暴れたりする成人式に何の意味があるのでしょうか？

私たちは自由と平等があると学校で学びました。しかし、戦前の人はそうではありませんでした。明治憲法には天皇主権と書いてあります。その頃は日本国は天皇の爲にあつて、国民の爲にはなかつたのです。日本は第一次世界大戦で敗戦し、連合国軍最高司令官総司令部により占領され、米国王導により、現在の日本国憲法が制定されました。日本国民に国民主権を与えたのは米国であると言つても過言はありません。米国はイギリスから自由と平等を勝ち取るために独立戦争を行いました。フランスは貴族から自由と平等を勝ち取るためにフランス革命をおこしました。一般人の自由と平等は歴史から見ると新しい権利なのです。

日本国憲法の三原則は国民主権、平和主義、基本的人権の尊重です。国民主権とは国民が自分の国の事を決めるという意味です。平和主義とは戦争を放棄することです。基本的人権の尊重とは自由権、平等権、生存権、教育を受ける権利などを言います。そして、国民が勤勉・働勞により義務を果たしているときに国家は国民の権利を守ることもできるのです。

貴方は善良な市民に対しては私には基本的人権があると主張できるでしょう。しかし、貴方は暴力団に対して私には基本的人権があると言えますか？多くの人はその勇氣はないでしょう。米国、英国、仏国などは日本の立場を尊重するでしょう。しかし、世界の常識が通用しないような北朝鮮が日本にミサイルを発射する可能性があります。そのリスクがあつても日本は平和主義で軍隊を持たないのは正しいのでしょうか。貴方の財産を泥棒から盗まれたら、貴方はどうしますか？貴方は警察に犯人を捕まえてもらえらるでしょう。もし、日本国に警察がなかったら、貴方はどうしますか？多分、貴方は自宅にピストルやライフルを用意するでしょう。これは西部劇と同じです。無法地帯になります。国家は法と秩序を守るために多額の税金を使い警察や自衛隊などを組織して国民が安心・安全に暮らせるように、自由・平等などの貴方達の権利を守っているのです。

貴方達の自由と平等を守るために、貴方達は働勞して税金を支払う義務があるのです。国民が税金を支払わなかったら、国家社会は無法地帯になり、貴方達のすべての生きる上での権利は剝奪されるのです。

私は創業して以来11年間連続で経営利益を出し、法と秩序、自由・平等を守るために正しく各種税金を納めてきました。これからも正しい経営と正しい納税を行います。

「2011年6月14日（火） 一日一話 「貴方には何が見えていますか（9）」

「政治」について考えてみよう。（2）

日本の議会制民主主義は、国民主権の原則のうえに、普通選挙権によつて議会の構成員を選ぶ政治体制である。選挙で選ばれた議員が民意を反映して政治が行われ、政策が実施されなければならない。一人一人の議員は公約を挙げ当選しているがそれが政党の意見と一致しなければ、国民主権の原則に反することになる。

前回の衆議院議員選挙で自民党が大敗し、民主党が大勝した。それは民主党の政策が良かったのではなく、自民党の政策に失望した結果の勝利であつた。しかし、民主党のマニフェストが支持されたと詭弁を使い、政策を実行しようとした。これまで野党時代に全くとつて政策を勉強しないで与党になつて慌てて勉強しても、基礎がないから野党から与党への質問に対する回答が支離滅裂になつた。挙句の果てに民主党は分裂してしまつた。国民主権は無視され、国民不在の政治になつた。では、誰が悪いのであるのか？

福沢諭吉先生は今から137年前の明治6年（1873年）に「悪政を生むには国民の無知に起因する」と言っている。

『国民の中には無字で文字も知らず、善悪の判断もつかず、飲食と寝起きすることだけが芸であるような者も少なくない。しかも、無字なくせに欲だけは深く、人を騙して法を逃れ、国法の尊厳も知らず、自分の義務も果たさず、子供だけはつくるが、その子を教育する方法すら知らない者がいる。』

これらは恥も法も知らない愚か者であり、そんな親に育てられた子は、国の為になるところか、かえつて害をなす大人になるだろう。こういう愚か者を扱うには道理を持つて説くよりは望むところではないが力でもつて脅かし、彼らの悪行を鎮めるしか方法がないであらう。

いふなれば、このことが世に横暴政治、専制政治を生む原因にもなるのである。わが旧幕府のみならず、アジア諸国も同様であつた。つまり、一国の暴政や悪い政治家たちのせいではなく、国民の無知から招いた災いなのである。』

今年（2011年）である。137年前の明治6年と何処が違ふのであつたか。時代は変わるが人は変わらないということである。しかし、諦めては先人の努力を無にすることになる。良い政治を生むためには国民が自分の無知を深く反省し、学問することである。そして、与えられた国民主権を有意義に使わなければならない。

「2011年6月15日（水） 一日一話 「貴方には何が見えていますか（10）」

「福祉」について考えてみよう。

福祉とは「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味し、それを実現するのが社会福祉政策である。日本国憲法第25条に書かれている「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」に起因し、それを社会保障は社会保険（医療保険、年金保険、労災保険、雇用保険、介護保険、公的扶助、生活保護）、社会福祉（老人福祉、障害者福祉、児童福祉、母子福祉）で実現している。この社会保障を受けられるのは日本国籍を保有している者のみならず、日本に居住している外国人にも適用されている。私の妻の国籍は中国である。しかし、日本国での在留資格は「永住者」である。私の妻を含む同じ在留資格の外国人は公民権以外はすべて日本人と同じ権利と義務を保有している。

神様が作ったような社会保障制度は完ぺきであるが人間がその立派な法律を施行するといろんな問題が発生する。無知なる国民は欲が深く義務を果たさなくて、憲法で保障されている健康で文化的な最低限度の生活を営む権利が私にはあるのだと主張する。

社会保険庁の職員は憲法25条には頭を悩ましていたろう。私もこの社会保障制度には頭を悩ましていた。なぜなら、これを實現するためにはそれなりの財源が必要となるからである。社会保険料を払えない中小企業は多いと思う。

起業してから半年ぐらいいは社会保険に加入できなかった。それを支払う余裕がなかったからである。社員の親が息子に社会保険も加入できないような会社には勤めないほうが良いとアドバイスされたことを私に話した。それから単金の高い会社と取引すると生産性を高めていかなければならなくなった。それから2ヶ月後に無理を承知で社会保険に加入した。社員にとっては当たり前だろうが経営者になるとその当たり前が非常に難題なのである。現在、会社の口座から引き落とされる毎月の社会保険料は約821万円で、年間で約1億円が引き落とされている。ただし、これには労災保険と雇用保険が含まれていない。中小企業にとって、不況でも雇用を守り、社員に生活基盤の保障を与えるのは至難の業なのである。私はその上に学問する必要性を説き、実学をしつかり学ばせる環境をも実現している。経営者の経験がない人達はその苦労と苦悩を実感できないだろう。

話を国家の社会保障に戻すが、少子高齢化社会でこれを持続することは不可能に近い。だれもがこの問題を真剣に考える必要があるのだが、常に先送りしているのが現状のようである。しかし、国家財政が破綻したら、ある程度の財産を持つている人を除く多くの国民はパニックになる。しかし、パニックになっても解決する方法はない。

例えば、生活保護者が200万人を突破し、戦後の混乱期と同じになり、受給世帯数も145万世帯強で過去最多を更新したという報道がなされている。それだけの費用が必要なのか分からないが、一世帯10万円/月の扶助が必要だとすると、毎月1458億円の費用が必要となる。1年間では1兆7500億円となる。今後生活保護者が増加するのであれば、本当に深刻な問題になる。長期的な視野で考え、生活保護者を少なくするためには若い頃の学問のススメが重要となる。

例えば、財源が枯渇し年金が支払えないからと言って企業に60歳から65歳に雇用を延長させるように法律が変更された。これで終わると思えない。近未来に定年を67歳とか70歳まで延長させるであろう。そうすると大企業は正社員を採用するより、他の労働契約を考えるであろう。さらに海外に拠点を移し、現地の低賃金の労働者を雇用することが加速すると思われる。そうすると日本国内の産業はさらに空洞化する。益々、国は活力を失くして、若い人たちは海外に職を探しに行くだろう。その悪循環は終わることはない。努力しなくても生きられる充実した社会保障制度が仇となって、日本国が衰退する原因になっている。「働かざる者食うべからず」という大原則が社会保障制度の中にも必要となるだろう。

では、この問題を解決するにはどのようなことを行えばよいのであろうか？

【2011年6月16日（木） 一日一話 「貴方には何が見えていますか（11）」

「日いづる国」になるためには何をすべきか！

遣隋使の小野妹子が、持って行ったとされる唐簡の冒頭に「日出處天子致書日没處天子無恙云云」と書かれている。これは「日が昇る国の天子（国主）から、日が沈む国の天子へお手紙します。元気？」という内容だそうです。書いたのは聖德太子である説がありますが定かではありません。万葉集の編者でもある山上憶良が遣隋使として出向き、国号を「倭」から「日本（日の下にある国）」へ改称したことを唐王朝に伝えました。これは聖德太子が書いたと言われる唐簡を意識しているのでしょうか。これが「日本」の始まりだと言われています。

私達日本人は100年に一度と言われる世界大不況に見舞われ、その2年後、1000年に一度と言われる東日本大震災に見舞われ、日本国民は大きな痛手を負いました。

今政府は東日本の被災地の復旧・復興を最優先の課題として取り組んでいます。日本全体の経済の復旧・復興はできるのでしようか？

日本の借金がGDPの2倍以上になっているのに赤字国債の乱発で、税制改革や社会保障政策の改革は先送りになり、この先日本国はどうなるのであろうかと非常に心配しています。

もし、仮に政府に対して不平や不満を抱くことがあれば、真に政府を恨むのではなく、正々堂々と公言して議論すべきである。天の道人の情理にならうことであれば、命を懸けてでも戦うのが正しい道で、これこそ国民としての立場なのであると橋沢諭吉先生は言っている。私もまったくもって同感である。また、先生はこのようにも言っている。

いまの世の中に生まれて、国に報いる心を持つ者なら、誰しも心を苦しめ、身をこがすような心配をすることはないはずだ。そのために大切なことは、国民の一人ひとりが自分の行動を正しく保ち、学問に志し、広く知識を取得し、おのおのの立場に応じた才能と人徳を磨くことである。同時に政府は、政治をわかりやすく国民に伝え、その政策が国民に平安をもたらすべきである。そして国民と政府が一つとなってわが国の繁栄と平和を築くことこそ、私のすすめる学問であり、その目的はこの一点である。

『日いつる国』 なるためには我々は何をすべきか！

日本国民は日本国憲法を子子孫孫まで堅持するために国民挙げて国民の義務、教育の義務、勤労の義務、納税の義務を優先しなければならぬ。

【2011年6月16日（金） 一日一話】『貴方には何が見えていますか（12）』

これまで11回に分けて話を続けてきましたが、貴方は何か見えてきましたか？

真宗の修行の中に護摩というものがあります。その中の一つに内護摩があり、それは仏の智慧の炎で内心にある煩惱や業を焼き払う修行です。自分の為に生きると煩惱が深くなります。だから、他人の為に生きることがあります。それをキリスト教では愛、仏教では慈悲、儒教では仁と言います。

国民には権利と義務があります。権利は自分の為にあります。他方の義務は他の人の為にあります。その国民の義務には教育の義務、勤労

の義務、納税の義務があります。

1. 教育の義務とは国・政府・中央政府・地方政府、人（国民・保護者など）などが子供に受けさせなければならない教育のことである。義務教育の制度は、多くの国において普及している制度である。日本国憲法第26条第2項に、「すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。」と定められており、この規定に基づく教育を「義務教育」と呼称している。そのため、保護者は、学齢期の人を小中学校などに通学するように取り計らう義務がある。これを就学義務（就学させる義務）という。

国家は子供達に手厚い教育環境を整えているが、保護者の中には愚かな両親がいて、はなはだ問題があります。例えば学校などに対して自己中心的で理不尽な要求をする親がいる。それをモンスターペアレントといいます。一般社会経験の少ない教職員はその対応に悩み、心の病気になる者もいるらしいです。例えば、子供の給食費を払わない親もいます。例えば、子供に体罰を与える親もいます。例えば、離婚する親もいます。これは家庭問題や学級崩壊の原因になり、子供達が教育を受ける環境には不十分です。大都会では少子化にも関わらず、こうした学級崩壊問題に対して不安を感じる比較的生活に余裕のある親達は自分の子供を私立中学に通わせるケースが増えています。これでは本来の義務教育の趣旨に反する状況になっています。これらの問題を丁寧に解決する必要があります。

私は提案したい。婚姻する・しないは男女の自由である。子供を産む・生まないも親の自由である。また、離婚する・しないも婚姻者の自由である。ただし、子供を出産した場合、特別な理由がない限り、子供が義務教育を卒業するまで両親は離婚できないという法律を作るべきではないかと。養育費を払えばよい問題ではない。親としての責任を果たすべきである。道徳心だけでは解決できない問題になっていると私は思う。子供の立場でも考える必要があります。

【2011年6月20日（月） 一日一話 貴方には何が見えていますか（13）】

2. 勤労の義務

誰もが「働かざる者、食うべからず」と言葉を知っているだろう。その語源は意外や意外、新約聖書に書かれている。これは数千年の長い

歴史を生き抜いたユダヤ人の知恵なのである。それを新約聖書に書き遺している。それはテサロニケ人への第二の手紙の第3章に書かれているので、読んでみよう。

兄弟たちよ。主イエス・キリストの名によってあなたがたに命じる。怠惰な生活をして、わたしたちから受けた言伝えに従わないすべての兄弟たちから、遠ざかりなさい。『わたしたちに、どうならうべきであるかは、あなたがた自身が知っているはずである。あなたがたの所にいた時には、わたしたちは怠惰な生活をしなかったし、

人からパンをもらって食べることもしなかった。それどころか、あなたがたのだれにも負担をかけまいと、日夜、労苦し努力して働き続けた。

それは、わたしたちにその権利がないからではなく、ただわたしたちにあなたがたが見習うように、身をもつて模範を示したのである。また、あなたがたの所にいた時に、『働くことしない者は、食べることもしてはならない』と命じておいた。

ところが、聞くところによると、あなたがたのうちの者は怠惰な生活を送り、働かないで、ただいたずらに動きまわっているところである。

こうした人々に対しては、静かに働いて自分で得たパンを食べるように、主イエス・キリストによって命じまた勧める。

兄弟たちよ。あなたがたは、たゆまずに良い働きをなささい。

もしこの手紙にしろしたわたしたちの言葉に聞き従わない人があれば、そのような人には注意をして、交際しないがよい。彼が自ら恥じるようになるためである。

しかし、彼を敵のように思わないで、兄弟として訓戒しなさい。

私達は誰にも負担を掛けないように日夜、労苦し努力して働き続けることである。本当に困った人は助けなければならないが、怠惰な人を助ける必要はないと聖書は言っている。聖書に書いてあるのだから間違いない。

日本には11月23日を勤労感謝の日として祝日になっている。この日は收穫物に感謝する大事な行事として飛鳥時代の皇極天皇の時代に始まった新嘗祭（にいめさい、しんじょうさい）の日に由來する。生きることは感謝である。働くことができることも感謝である。労働によ

り得られるものは神々（天）の恵みとして感謝しなければならぬ。それが勤労への感謝なのである。

貴方が無職であるとき、貴方は生きる希望があったらうか？決してなかった。でも就職してから、貴方は生きる希望を持たたらう。貴方が無職であった時の事を思い出さない。そうすれば、貴方は人の情けで仕事に就け、人の情けで仕事をしているのを理解できるであらう。決して、憲法で言っている労働する権利は保障されていないことが分かるであらう。それを十分に理解すべきである。

【2011年6月21日（火） 一日一話 「貴方には何が見えていますか（14）」】

2. 勤労の義務（2）

各種データを基に現状が大変厳しく、未来はさらに厳しくなることを理解する必要がある。

（1）世界の人口爆発

イエス・キリストが誕生した頃の世界の人口は1億人（推定）で、東ローマ帝国が最盛期の西暦1000年頃には2億人（推定）と人口増加は緩やかであった。18世紀〜19世紀に起こった産業革命が人口爆発の起因となり、西暦1900年には15億人となり、100年後の西暦2000年には65億人と急激に増えた。西暦2010年10月現在の国連推計で世界の人口は69億人であった。40年後の西暦2050年頃には90億人を超える予想されている。人口爆発は食糧不足、住宅不足、用水不足、雇用不足など人間が人間らしい生活に必要な物の不足に拍車を掛ける。さらに資源（水資源、鉱物資源、森林資源、水産資源、海底資源、海洋資源、遺伝資源、電波資源など）の枯渇が起き、自然破壊（森林破壊、大気汚染、海洋汚染、土壌汚染、生態系破壊）が起き、人類を含む生物が生存できない状況になる。人間の命は地球より重いと言われるように簡単なことでは人口爆発は神でも止められない。

ここでは「勤労の義務」を語っているので、雇用問題を考えると世界の人口爆発が世界中での高い失業率の原因になっている。特に発展途上国の人口爆発が先進国の雇用に暗い影を落としている。さらなる人口増加は各国の雇用問題を深刻化させる。

（2）日本の少子高齢化社会

日本の人口は8世紀には450～650万人。1000万人を越えたのは中世後期、早くとも15世紀以降と考えられている。江戸時代前半の17世紀に急増し、18世紀から19世紀は3000万人前後で安定化した。1920年では5596万人、1950年では8319万人、1970年には1億372万人と1億人を越えた。昨年の2010年国勢調査によると日本の人口は約1億2800万人である。これが日本の人口増加の歴史である。

数年前から少子高齢化の影響で日本の人口は減少に転じた。2010年の推計人口によると、65歳以上の人口は2944万人となり、総人口に占める割合は23.1%と過去最高を更新した。一方、2009年には出生数が約107万人、2010年の月報年計の概数では出生数が約107万人と少子化に歯止めがからない。これからも高齢者の比率は高まり、若年層の比率が低くなっていく。

国立社会保険・人口問題研究所によれば、人口推計の出発点である平成15(2003)年の日本の総人口は同年の国勢調査によれば1億2777万人であった。出生市位推計の結果に基づけば、この総人口は、以後長期の人口減少過程に入る。平成16(2004)年の1億1513万人を経て平成18(2006)年には1億人を割って9988万人となり、平成19(2007)年には9888万人になると推計される。出生市位推計によれば、総人口は平成18(2006)年に1億人を割って9888万人となり、平成19(2007)年に9777万人になると推計される。一方、出生低位推計では平成14(2002)年に1億人を割り、平成17(2005)年には9422万人になるものと推計される。このように出生低位推計では45年後には現在より4400万人弱の人口が減少し、日本の総人口は8400万人強となると予測されている。今後出生率を上げないと人口減少に歯止めは掛からない。

(3) 日本経済の現状

日本は1995年から15年間GDPの成長率が停滞している。2010年の国内総生産(GDP)は名目GDPが479兆円で、実質GDPが539兆円である。

借入金、政府短期証券を含む日本全体の債務残高は増加して、現在は1137兆円になっている。今後さらに増え続けて行く。

<http://www.khi-web.org/hw/>

を参照している。

日本全体の借金はGDPの2倍である。これは想像を絶する数字であることを日本国民は認識してほしい。

最近の生活保護者が約200万人、平成21年度末現在の高齢年金給付者数（厚生年金保険）：1289万人、国民年金：2481万人となっている。

総務省労働力調査によると平成23年2月分労働力（就業者：6211万人、完全失業者：302万人、非労働力人口：4530万人、就業者：6211万人、男：3388万人、女：2823万人、雇用者：3251万人、男：1828万人、女：1423万人）である。

また、労働力調査（詳細集計）平成23年1～3月期平均全国（若手県、宮城県及び福島県を除く結果の概要によると、雇用者（役員を除く）380.6万人のうち、正規の職員・従業員は322.2万人と、前年同期に比べ38万人の減少、非正規の職員・従業員は58.4万人と、108万人の増加、非正規の職員・従業員のうち、パート・アルバイトは118.2万人と、2.2万人が増加した。正規の職員・従業員の労働人口が減少し、非正規の職員・従業員が増加している。それは若者が国家を社会に不信感を持ち、希望を失くし、無気力化に拍車がかかることになる。

【2011年6月22日（水） 一日一話 「貴方には何が見えていますか（15）」】

3. 納税の義務

国家が法と秩序を守るためにはお金が必要となります。それを租税という形で国民に納めてもらいます。貴方が平和で安心な暮らしを営み並びに自由と平等を主張するためには法と秩序を維持する為の費用を納めなければなりません。もし、貴方が北朝鮮に生まれたら、貴方には生きる恐怖が待っていたでしょう。もし、貴方がソマリアに生まれたら、貴方はもっと過酷な運命が待っていたでしょう。もし、貴方が中国に生まれたら、貴方は政府を批判ができません。現状の中国国籍のある中国人は外国に住んでいても中国政府の批判はしません。貴方は日本に生まれたことが大変運が良いことを知らないのです。貴方は他国の政治経済情勢を知らないでしょう。当たり前に思うことを実現するのは大変難しいことなのです。日本人は人類が理想とする憲法が日本にあることを誇りに思う必要があります。自由、平等と平和を実現するために、貴方は勤労して、喜んで税金を納めなければなりません。私は納税することに誇りを感じています。そのことを中小企業の立場で創業以来11年連続黒字決算していることで証明できます。

それではどのような租税があるのでしょうか。

国税

直接税

所得税、法人税、相続税・贈与税、地方法人特別税

間接税

消費税、酒税、たばこ税、たばこ特別税、揮発油税、地方揮発油税、航空機燃料税、石油ガス税、石油石炭税、自動車重量税、印紙税、登録免許税、電源開発促進税、とん税、特別とん税、関税（原油等関税など）

地方譲与税関係

地方揮発油譲与税、石油ガス譲与税、航空機燃料譲与税、自動車重量譲与税、特別とん譲与税、地方法人特別譲与税

地方税（都道府県）普通税

道府県民税

事業税、地方消費税、不動産取得税、ゴルフ場利用税、道府県たばこ税、自動車取得税、軽油引取税、自動車税、鉦区税、固定

資産税（特例分）、法定外普通税

目的税

狩猟税

地方税（区市町村）

普通税

市町村民税、固定資産税、軽自動車税、市町村たばこ税、鉦産税、法定外普通税

目的税

入湯税、事業所税、都市計画税、水利地益税、共同施設税、宅地開発税、国民健康保険税、法定外目的税

これだけの租税があるのです。しかし、なぜ、財政赤字になったのでしょうか？それは政治家個人と政党が国民に支持を得るために、国民に飽（い）い語を与え、国民に犠牲となる増税や社会保険の負担増や福祉費用の減額などの鞭を打たなかったことが原因なのです。政治家個人や政党の保身を自抜けない国民の愚かさが今日の巨額財政赤字を生んだ根本原因なのです。

『2011年6月23日（木） 一日一話 貴方には何が見えていますか（16）』

愛について考えてみましょう。

これまでの15回の中で、貴方が野獣の住んでいるジャングルに住んでいないことが

理解しました。私も貴方も法の下で自由と平等の権利が与えられた法治国家に住んでいます。これは人類がチンパンジーから進化し、頭脳を発達させ、1万年くらい前に文明を作り、それから権力闘争のために戦争を繰り返しながら、逆に人が幸福を得るために様々な宗教、様々な哲学、様々な科学を発展させてきました。現在の文明・文化は先人の苦悩と知恵の結晶です。そして、少しでも、自分達の世代より次の世代が幸福になるようにと親が子供の為に祈念することの歴史でもあったのです。

恋の古い字は「戀」です。それは左右に糸を書き、中央に言の字を配してある。糸が左と右にあつて、容易に裁ち切れぬさまを表し、糸が乱れて千々に乱れる心の模様を表しています。「筋肉の痙攣」を想像してみれば、恋は好きな異性を思う心の痙攣と言えるでしょう。

愛という字は、昔は「无十心十久」と書いた。无とは、人間が腹をいっぱいにつまらせて、ウーンと後ろにのけぞった姿である。「心十久」は憂（ユウ）と同じ意味である。だから、愛とは、異常な心の高まりだから、愛の心は必ず「切なさ」を伴うものだ。そして「切なさ」はむしろ悲しみに近い。要するに愛も「胸いっぱい切なさ」を表している。辞書によると「愛」は

1. 親子・兄弟などがいつくしみ合う気持ち。また、生あるもののかわいがり大事にする気持ち。（愛を注ぐ）
2. 異性をいとおしく思う心。男女間の、相手を慕う情。恋（愛が芽生える）
3. ある物事を好み、大切に思う気持ち。
4. 個人的な感情を超越した、幸せを願う深く温かい心。（人類愛）

5. キリスト教で、神が人類をいつくしみ、幸福を与えること。また、他者を自分と同じようにいつくしむこと。
6. 仏教で、主として貪愛（どんあい）のこと。自我の欲望に根ざし解脱（げだつ）を妨げるもの。

1-4は個人的な愛であり、これを救済の愛と考えられる。

5. は広い意味で使われる。

6. の貪愛は利己に由来し、自分を失うことになる。

では、広い意味の愛とは無条件の愛、万人に平等な愛、神が私達に与える愛、見返りを求めない愛とキリスト教では言っている。

結婚式で神父が新郎・新婦に語りかけている「コリント人への第一の手紙」の二節に愛について語られている。

「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない、

「愛は不法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。

「愛は不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

「愛として、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。

私は社員を「愛」を持って育ててきた。途中にはいろんな困難があつたが、社員の両親が安心する社会人に成長していると私は確信している。多くの人が己の貪愛を捨て、見返りを求めない愛で隣人に気長に接すれば、多くの人が正しく育つ。そして不可能と思えることが可能となる。

【2011年6月24日（金） 一日一話 「貴方には何が見えていますか（17）」】

「生きる」とについて考えてみましょう。

貴方はなぜ、何の為に生きていますか？この「と」について貴方はこれまで考えたことはありませんか？貴方は、美味しい物を食べる為に遊ぶ為に、海外に旅行する為に、高級ブランドを身にまとふために生まれてきましたか？そうではないでしょう。貴方は仕事をする為に、趣

味を楽しむ為に、結婚する為に生まれてきましたか？そうではないでしょう。貴方は生きることの目的を知らない。だから、些細な事に苦悩し、貴方は未来に不安を感じるので。では、貴方はどうして生きているのでしょうか？貴方の生きることの真の目的を考えてみましょう。

それでは、宇宙の誕生から遡って考えてみましょう。温故知新ですね。以前であれば、ビックバンは宇宙の始まりでその前はなかったと考えられていましたが今の天文学「膜宇宙論」では約137億年前に、ほんのちよつとしたきつかけで膜と膜が近づいていき、衝突してすりぬけ、このときに熱や放射能が大放出が発生した。これが膨張宇宙の始まりであるビックバンと考えられています。暗が闇道に入っているという指摘をされるでしょう。しかし、宇宙が始まらないと我々の話も始まらないのです。ビックバンによりこの宇宙が誕生し、進化が始まり、やがて宇宙空間には恒星が誕生し、その恒星の集まる銀河が生まれ、その銀河の集まる銀河団が生まれました。宇宙空間には数千億個の銀河があるとされています。その銀河の一つに2000億個の恒星からなる「天の川」銀河があります。その天の川銀河の中に「太陽」という恒星があります。太陽は46億年前に超新星爆発で散らばった星間物質がふたたび集まって形成されました。同時に9つ恒星からなる太陽系も誕生しました。それらの惑星の中に我々が住む地球があります。

我々の地球では38億年前に生命体であるバクテリアが誕生し、20億年前に大気中の酸素が増加、オゾン層が形成されました。また真核生物が出現しました。10億年〜6億年前に多細胞生物が出現しました。5億年前にカンブリア爆発と呼ばれる生物の多様化が起こりました。この後、三葉虫、節足動物、4億年前にアンモナイトが出現し、陸上には大森林が形成され、陸上にも動物が進出した。

生物は生き残る為に多様に進化しました。生物は隕石の衝突や大陸移動、気候変動などで幾度となく大量絶滅しましたが、それにも負けずに生き残ってきました。生物は生き残るために進化してきました。生物は生き残るために子孫を残してきました。生物は繁栄、衰退、絶滅や進化を繰り返しながら生き残ることを選択してきました。

我々人類も生物の一つである。だから、人類も他の生物の営みと同じである。我々人間も子孫を残すために生きている。絶滅しないように進化しなければならない。生きていることは命をつなぐことである。また、環境変化に耐えられるために進化しなければならない。それが生物の掟である。とつやう、貴方の生きる目的が見えてきたようですね。

1. 貴方の生きる目的は子孫を残すこと。

2. 進化は貴方の生き残る為の手段である。

1. 貴方の生きる目的は子孫を残すこと。

2. 進化は貴方の生き残る為の手段である。

貴方がこれに従った生き方をすれば貴方は祝福され、幸福である。貴方がこれに背いた生き方をすれば、貴方は悩み苦しむ。この2つの前提を基に人間のすべての行動は説明できる。

まず、貴方が存在することは宇宙誕生から137億年間のすべての進化を貴方は記憶している。137億年間と気の遠くなる時間を超えて命が繋がれた。貴方は幾多の大量絶滅の難を超えてここに生きている。貴方が人間になってからも先祖は結婚し子供を生み育ててきた結果、貴方はここに生きている。宇宙誕生から遡って考えれば、貴方が生きていることは奇跡に近いことなのである。その奇跡を大切にしなければならない。そして、その奇跡を継承しなければならない。

フィボナッチ数列とはFibonacci (Fibonacci) で表される数列です。ヒマワリの種のらせんの本数はフィボナッチ数列に含まれている。筒状花、松かさやパイナップルの美についてもヒマワリ同様のらせんが現れている。オーム貝に見られる螺旋もフィボナッチ数列に含まれる。自然界にはフィボナッチ数列が潜むものが他にも沢山あるようだ。フィボナッチ数列は黄金比に近似される。私達が使う名刺の縦横比は黄金比になっている。「ミロのビーナス」や「モナリザの微笑」は黄金比で作られ、描かれている。また、黄金比美容整形もある。黄金比で作られたものは自然の厳しい環境を生き抜いた形であり、安定している。人がそれを見て安らぐのも当然である。だから、貴方はヒマワリやバラを美しく感じる。人の目には黄金比に近いものを美しく感じ、黄金比から遠ざかると醜いと感じる。

女性は美しくなりたいと思うのは黄金比に近づきたいという進化なのである。男性は黄金比に近い女性ほど好きになる。人間の目は黄金比を好む傾向にあるからだ。だから、女性は美人になる努力をすべきである。女性は化粧したり、装飾品を身にまとつのは美しさを助けてくれる行為なのである。実際に高級ブランドを身にまとつた女性はエレガントになる。女性はエレガントになることで男性を誘惑している。これは昆虫が発する性フェロモンに似ている。

美しくなりたいと思う女性の気持ちにがまきに生き残る為の進化なのである。美味しい食事は美しさへの憧れである。勉強で知識を蓄えるのは心の美しさに磨きをかける行為である。また華道、茶道などを習うのはこれも優雅な美を手に入れ、自分の美しさを進化させることである。

これは良い男性を誘惑して、丈夫な子供を安心して育てられるからである。遊びたい、旅行に行きたいと思つのは新しい出会いを求める行為なのである。恋愛は子孫を残したいと思つ行為である。女性は愛されると美しくなる。強く愛されて生まれてくる子供は元気に良く育つ。女性はお産しても黄金比を意識した生き方をしなければならない。それは妻が太ると夫は妻への愛が減り、浮気する確率が高くなるからである。また、子供は親を模倣する傾向にあり、太っている母親を見ると娘は太るからである。また、子供を出産してからは、母親は贅沢を慎み、質素な生活を心がけるべきである。なぜなら、子供は模倣するからである。質素な生活で蓄えたお金は貴方と子供の学問に使うべきである。

正しい生き方や仕事は人間を成長させる。成長は以前の自分からの進化である。だから、奉仕や犠牲を意識した仕事は良い結果を生み、人から好かれる。好かれることは貴方の生存を助けてくれる。また、貴方の子孫が繁栄することにもなる。企業に属して働いて報酬を貰うことは仕事であるが、育児したり家事したりというのも立派な仕事と考えれば良い。仕事は責任が発生するから心を成長させ、己の心を良い方向に進化させる。仏教の八正道や儒教の徳のある生き方は貴方の人間としての成長を助け、貴方の生存を助けてくれ、貴方の子孫の繁栄をも助けてくれる。女性が心身とも美しくなろうと努力することは命を繋いでくれた先祖への感謝であり、子孫繁栄への約束手形なのである。

【2011年6月28日（火） 一日一話 『貴方には何が見えていますか（19）』】

動物の世界では弱肉強食とか食物連鎖など、生きるために厳しい戦いがある。弱い小さな動物は生き残るために多くの卵を生む。大きな動物は生きるために多くを捕食しなければならない。人間から見れば残酷なようだが、それが動物の生きることの掟である。

人間は第二の遺伝子である知能を持ち、弱肉強食の頂点に君臨している。しかし、人間の世界でも激しい生き残りの戦いがある。昔は王として君臨した者もいる。あるいは逆に奴隷となった者もいる。貴賤上下の差別が歴然とあった。今では多くの国では身分の差はないが、貧富には差がある。それは難しい仕事は報酬が多く、易しい仕事は報酬が少ないからである。それは学問の差にとつて生ずると福次諭吉先生は言っている。

この世の現実存在はすべて、すがたも本質も常に流動変化するものであり、一瞬といえども存在は同一性を保持することができない諸行無常なのだから、人間社会も新しい時代、新しい価値観、新しい文化、新しい技術を欲している。だから、それに対応するために各自が変化し

なければならぬ。これこそ進化なのである。常に学問して精進しなくては生き残れない。何時も謙虚で素直な気持ちで生きる必要がある。女性が惹かれる男性は優しい。優しさの奥には強さと豊かさが隠れている。学問の目的は平和と繁栄であるから、絶え間なく学問して、一生懸命に働かなければならぬ。そんな人は誰からも好かれる。そんな彼は祝福され繁栄する。そして、彼の一家も繁栄する。その彼が多ければ多いほど程、国家が繁栄する。

【2011年6月29日（水） 一日一話 「貴方には何が見えていますか（20）」】

貴方の目に真理が見えるように、貴方の耳に誠の音が聞こえるように、貴方の口が真実を伝えることができるように考える必要がありますと云う命題から始まり、今回が最終回になります。貴方は生きる真理が多少分かりましたか。これまでの人生を省みて、これから何をしなければならぬか見つかりましたか。

最後に、貴方が突然失明したら、どうしますか？その時、誰にすがりますか？国家の社会保障制度に頼りますか？貴方の子供が突然失明したら、どうしますか？貴方は国家の社会保障制度に頼りますか？多分、貴方も子供も決して幸福にならないでしょう。なぜなら、国家は貴方達の権利に対して与えるだけでそれ以上のことはしません。だから貴方や子供は幸福にはなりません。そんな貴方は健康な時に自分を犠牲になり他人に尽くさなかつたからです。貴方が若い時に傲慢だったり、感謝の気持ちを持たなかつたりしたから、老人になって周囲から優しくされないのです。それを因果応報というのです。しかし若い頃にはなかなか大切な事に気がつかないのです。貴方が健康であるときにも気がつかないのです。貴方が突然失明しても、老人になっても、幸福でいられるためにはどうすればよいのか考えましょう。

仏教に布施ということがあります。布施とは慈悲の心をもって、他人に財物などを施すことです。真言宗最勝寺の池内惠観法主・大僧正によると施しは財力がなくてもできることが七つあるそうです。

1. 眼施：やさしいまなこ
2. 和顔施：なごやか、にこやかな笑顔
3. 言辞施：親切な言葉

4. 身施：相手に対する敬いが溢れる礼儀

5. 心施：心からの思いやり

6. 床座施：ゆずりあい

7. 房舎施：気持ちを込めたもてなし

これならば、貧窮を問わなく、実践することができます。別の言い方をすれば、己を犠牲して奉仕することです。これを実践してください。これのできた人はもう大衆立派な人格者になっています。その人が例え失明しても、多くの人が必ず手を差し伸べてくれます。もうこの人には障害者手帳は無用です。人は権利で生きるのではなく、人の情けで生きられるのです。この事を胸にこれからの人生を生きてください。

聖書：出版 URL <http://bible.salernae.net/kougo.html>

参考文献・資料

読むだけですっきりわかる政治と経済

著者 後藤武士

発行 株式会社 宝島社

発行 2008年12月19日

2010年版 日々のことは「松下幸之助」信念

編著 PHP 総合研究所 経営理念研究本部

発行 PHP エディターズ・グループ

中村天風一日一話 元氣と勇氣がわいてくる哲人の教え366話

編著 中村天風財団（財団法人天風会）

発行 PHP 研究所

発行 2005年8月22日第一版発行

ちくま学芸文庫 ユダヤ史代誌1

著者 フラウイウス・ヨセフス

訳者 秦 剛平

発行 株式会社 筑摩書房

発行 1989年10月7日第一版発行

中公新書 シュメール 人類最古の文明

著者 小林登志子

発行 中央公論新社

発行 2005年10月25日初版

ちくま学芸文庫 ギルガメシ叙事詩

訳者 矢島文夫

発行 株式会社 筑摩書房

発行 1998年2月10日第一刷発行

ロスキル標準 経営者向け概説書

初版発行 2005年11月30日

発行者・編者 独立行政法人 情報処理推進機構
ロスキル標準センター

学問のすすめ 自分の道を自分で切りひらくために

著者 福沢諭吉

訳・解説者 柳龍一郎

発行 PEP 研究所

発行 2008年11月19日

「一日一話」仕事の知恵・人生の知恵

著者 松下幸之助

編集発行 PEP 総合研究所



E-mail : koga@kogasoftware.com

コガソフトウェア株式会社

東京都台東区上野 1-17-6

広小路ビル 4 階 〒110-0005

電話 : (03) 3833-0733

FAX : (03) 3833-0732

<http://www.kogasoftware.com/>